郵便信書認可（第八十一號）

東京小間物新報

雜報

❶釜山港の輸出入　昨廿九年度の釜山港貿易は二十八年度に於る農作豊饒の結果として商況極次盛の氣運に向ひたるに夫の京城二月の事變に引続き各地方に匪徒蜂起し我商人の身体財産に危害を加ふるに至り爲に彼我の貿易茲に一頓挫を來たし殆んど依復の見込なき實況を現はしたるも其後匪徒の騒擾も追々鎮靜に歸し且昨年の農作は數十年來稀有の豐饒にて生産地より續續米豆の輸入あり銀の流入を即ち無きに至れり尤も十月、十一月の交内地金融逼迫の影響に由りて取引上暫らく閑散を免れざる分の恐慌を來たしたるも廿九年度の貿易額は豫想外に好果を得たり即ち左の如し

二十七年度輸入總計額二百九十四萬一千零七十八圓二十五錢
二十八年度輸入總計額二百九十四萬一千零七十八圓二十五錢
十五年度輸出總計額百四十萬八千九百七十九圓二十七錢
十六年度輸出總計額百四十萬八千九百七十九圓二十七錢
十七年度輸出總計額百四十萬八千九百七十九圓二十七錢
十八年度輸出總計額百四十萬八千九百七十九圓二十七錢
十九年度輸出總計額百四十萬八千九百七十九圓二十七錢

右の如く二十九年度の貿易額は二十七八年に超過する事實を示すに至りしは要するに農作物豊饒の結果に外ならず而して朝鮮國に於て諸穀類を取引貿易する事は獨り我商人のみならず其他諸國の輸入品たる金巾類に於ても支那商人の取扱ふものの我に超るゝ勢を容れざるなり海産物魚類に於ても我漁船の總數は大五十七百五十人にして水産會社の手を經て賣捌さるる魚類の代金十萬四千五百圓あり此外海産干鰯類は會社の手を經ず直接に各舟より長崎大阪等の商人の買渡すを以て其價格を知ること能はざるも釜山港の輸出入は世界の巨額に達し開港以來未曾有の盛況を呈し隣で海關署の如き數年にして其收入を增加せり試に昨年十月以降の收入を表にすれば左の如し

十月　三萬九千百二十三圓
十一月　三萬九千百二十三圓
十二月　三萬九千百二十三圓

而して十二月中輸出入總額に就て見るに釜山商業會議所及び海關署の統計に據りて之を折衷すれば實に九十五萬四千二百餘圓の多きに上り之を廿七年の十二月に比して五十六萬餘圓廿八年の同月に比して三十六萬餘圓を增加せりと

❷企業家と銀行家の區別　企業家と銀行家とを區別するは言ふまでもなく事にして岩崎日本銀行總裁は夙に其意見を有し大阪實業家に向つて曾て冬片倉同支店長より屋敷を拵へ同業に關する意見を叩きし節次官の答へたる趣味大凡左の如しと

「商業は資本を投じて利益を得るを目的とするの點に於ては銀行家と異なる所なしと雖も今俗人に實行し難き事情あり之を例へば鑛業の如き商工業上先分の發達を見ざる地にあるが如く商工業上先分の發達を見ざる地にあるものは分業法容易に行なはれず文明の事業に當るものは自分から限りあるべき資本上に關して十歳以上の人ならでは世間の信用海く而して當時此年齢に達し居るもの多く學問の素養なければ專門の技倆なく勿論只普通の人よりも早く世間の事物を聞知し或ひは性來活潑なるか但し久多少財産あるか相違よりして各種の事業に關係し是等少數人にして文明的商工業の發達を見るに至りたる次第なれば今俗に此關係を絶んとするも大抵の如き地にありては別して之に代るべき人あく是が爲め事業の勃興を妨げ進捗を害するの憂ひなしとせず尤も大阪の實業家と目せらるゝ橋本重太郎、田中市兵衛の諸氏の作り岡氏より商賈の說を聞きて至極賛成なりと述べ一般の實業家も亦た此方針に出ざるべからずと信じ居るよりなれば追々の區別を見るに至るべきも實行は容易なるべしと雖も此方針に出ざるべからず之

（禁轉載）

花かんざし類、モール簪、縮緬製モール入同藥玉用のお月付物は花鳥物各種、同菊、牡丹、梅、の類大房付、いづれも大に賣行あり間に合ず同在前の美女花が羽二重製梅花かん一○より四五、五〇位まで物各種越らず賣行あり

ゴム花かん、梅、牡丹、菊、大房付賣行あり、尤藥玉の非常の賣行にて注文山の如し但し直印非常の賣なり

雪輪、賣行非常なれども生地拂底の爲間に合ず

蝶模様、四五、五十ゐ生地深山あるも上向、四寸、三八、三五、地方よりの注文夥多しく製造方体も暇なし

骨馬櫛、二〇以下い名古屋製の品大に賣行あり二〇以上は地の方向よろしけれども職工少なき爲め間に合ず

同塗櫛、生地非常の直上にて職方困難の樣子併し上物賣行あり但し色い褐色、鐵色、茶褐、溜塗、ゴム塗、朱塗、等に不形い櫛、政子、ふ動月形の類なり

新月櫛、賣行非常なれども生地拂底の爲間に合ず

同模様櫛、二十物櫛、一丁櫛、赤とろけ、黒無地何れも賣行あり但し直印い二〇より八九〇迄の品、同利休も同斷、同蛍印鈔、櫛、政子、

同賣付物、右同斷、同蛍印鈔、櫛、政子、直印い十五より二十〇位の品大に賣行あり

鋼線、其種類を羅れは鼈甲形、平打、丸打、角、丸、中、細、中透、同繪付、象眼入、朱塗鐵地等あり但し當今の事とて何れも上物の賣行あり

同鬢止、右同様其外各種いづれも賣行あり

鼈甲止、李節物の事とて賣行尤もよし、形へ揚羽の蝶、並蟻の類にて丁貝製の物同よろしけれども中へ付た貝入の賣行あり

鼈形、鼈心入、地出來大形物並各賣行あり但し中尻同薄形も年寄向として相越らず賣行あり

太たぼ三ッ組、丸形太、同細三ッ組、並中節、一二三同細中節、切たぼ何れも一二三賣行あり

同模様其外各種いづれも賣行あり

鼈甲止、李節物の事とて賣行尤もよし、形へ揚羽の蝶、並蟻の類にて丁貝製の物同よろしけれども中へ付た貝入の賣行あり

鼈形、鼈心入、地出來大形物並各賣行あり但し中尻同薄形も年寄向として相越らず賣行あり

太たぼ三ッ組、丸形太、同細三ッ組、並中節、一二三同細中節、切たぼ何れも一二三賣行あり

新月櫛、二十物櫛、一丁櫛、赤とろけ、黒無地何れも賣行あり但し直印い二〇より八九〇迄の品、同利休も同斷、同蛍印鈔、櫛、政子、

同賣付物、右同斷、同蛍印鈔、櫛、政子、直印い十五より二十〇位の品大に賣行あり

鋼線、其種類を羅れは鼈甲形、平打、丸打、角、丸、中、細、中透、同繪付、象眼入、朱塗鐵地等あり但し當今の事とて何れも上物の賣行あり

同鬢止、右同様其外各種いづれも賣行あり

鼈甲止、李節物の事とて賣行尤もよし、形へ揚羽の蝶、並蟻の類にて丁貝製の物同よろしけれども中へ付た貝入の賣行あり

鼈形、鼈心入、地出來大形物並各賣行あり但し中尻同薄形も年寄向として相越らず賣行あり

太たぼ三ッ組、丸形太、同細三ッ組、並中節、一二三同細中節、切たぼ何れも一二三賣行あり

◎朝日あらひ粉　今度牛込細工町なる九兵衛堂小林啓治氏方より發賣せし同品の美國産物特殊の効ある事を銘見只來多年種々の試驗と工夫を凝し漸く製造するに至り由なれば其品質の尊良なる云ふまでも無き事なれども此洗粉を用ふれば不しとの好評を博し發賣日益盛ンにも掲はらす目下非常の賣行ありと云ふ

◎都築氏の勉强　多年の間中尾氏に精勤の後昨年馬喰町三丁目へ開店したる都築弥吉氏（元小田殖産株式會社の職工）は日增に盛大の域に進み除て石鹸入の同氏の殆んど專賣物の如くなりよりて度更に同品の製造場を設けて專ら新形の各種を製出し、ガラス、陶、金属を始め藥、付の類に至るまで何れ親切にして直を安く販賣致す計畫全く成たれと拵に都堂と云へる製號を命名したりと云ふ實に慶賀すべき事と謂ふべし

◎ぬれがらす　彼の有名なる銀田第一堂のぬれがらすい近來諸物價に其に原料の非常に騰貴せしからすい近來諸物價に其に原料の非常に騰貴せしに拘はらす直段を上げずに今日に至るまで何れ親切に精製せしもの自然需用者の信用を得時に數倍し隨つて各地方よりの注文も夥多しきに至れり尤も洋製の器械を据付ひ來製造は充分なれとも何分職工力の仕拵に於て手廻に無る等の事もあれば相成ざるに付ては全く品切にて注文に應ぜざるに付ては全く品切にて注文に應ぜざるに付ては全く品切にて注文に應ぜ

本組合録事

◎解屋届出　組合員飯田とめ君より左の届出あり

御　届

神田區表神保町七番地雜業
山田勝吉弟
山　田　勝　吉
右者明治廿九年一月東京小間物卸商組合規約第十二條中に該當する者に付此段御届および報也
明治三十年一月廿九日
日本橋區通三丁目四番地
飯田とめ　㊞
東京小間物卸商組合役員御中

（參照規約第十二條）本組合員は本組合の代務人使用人にして本業を営む所為を爲して他人の雇人に屬せざれども業に従事する者は其出資の有無を問はず本組合の目的を達するの目的を以て組合員たるべきものとす

◎組合員退去　本組合員たりし大野庄太郎、佐藤竹次郎の二君は今回都合により組合退去の旨届出ありたり

◎吊詞贈呈　本組合員馬喰町一丁目平尾貴平君は去三十一日逝去せられしに付組合員一同を代表して頭取より吊詞を贈れり

◎一席六組聯合共進會　東京埼玉群馬栃木山梨長野嶋島の一席六組聯合共進會の規則は去十八日告示になれり本年十月一日より十一月十五日まで栃木縣足利に開くものにて出品は國生絲及び繊物（絹織物、本絹織物、麻織物、毛織物、交織物）繊物染物、繊物、織物、磯織、合羽、帽子、鞄、家具類、紙及紙製品、雜貨、貯藏飲食物、無煙草等好品

◎學齢兒童の種痘問題　天然痘は各府縣とも過激流行を極むる爲め新入校兒童に對し強制種痘を施行せんとし其方法を學校衛生諮問會に諮問する趣なるが本邦にては現今未だ此制度なき爲め結局痘邪に於て千八百十七年四月八日發布せし法律の明文に依り強制種痘を施行し居るものを參酌して適當なる學齢兒童の種痘方法を定むる筈其御邀の法は文左の如し

第十五條生徒に強制種痘を施すべき學校長は生徒の入學に際し第十條に據る提出せし生徒の入學に際し第十條に據る提出せし學校長は生徒の在る場合に於て第一條二項に依り種痘すべき義務を生じたる場合に於ては生徒をして此義務を完うしむるとに於て第二條二項に依り學校長は生徒の種痘を施行せ

▲水産博覽會事務局告示及東京府令

第二回水産博覽會事務局告示第六號

水産博覽會事務局ハ明治三十年十九號ノ二ニ基キ第二回水産博覽會ヲ開設シ左ノ如シ

明治三十年一月二十六日

第一回水産博覽會開催場　兵庫縣神戸市楠町

第二回水産博覽會會場　兵庫縣神戸市楠町

第二回水産博覽會附屬水族館　兵庫縣神戸市兵庫和田神

第二回水産博覽會事務局告示第七號

第二回水産博覽會構内水産物所飲食店設置規程左ノ通定ム

明治三十年一月二十六日

第二回水産博覽會構内水産物所飲食店設置規程

第一條　縱覽入場者ニシテ事務局ノ適當ト認ムル者ニ限リ水産博覽會構内水産物所又ハ飲食店ヲ設置スルコトヲ許可ス

第二條　休憩所又ハ飲食店ヲ設置セントスル者ハ其設備ノ事項ヲ詳記シタル願書ニ建築設計及圖面（縮圖ヲ可トス）ヲ添ヘテ事務局ヘ願出ツベシ

第三條　飲食店ハ各地著名ノ水産物ノ調理（河海魚介類ノ和洋及支那風料理）若クハ其貯藏調味（鹽詰、燻製、乾鹽魚、鹽子類、鹽辛類、鹽引魚類其他ノ貯藏調味品）ノ利用ヲ主トスルモノ

第四條　共同飲食店ヲ設置セント欲スル者ハ事務局ノ定ムル設計ニ依リ之ヲ設クベシ

第五條　休憩所ハ左ニ記載スル物品ヲ販賣スルモノニ限リ構内ノ飲食店ノ飲食物ヲ取寄セ販賣スルハ妨ケナシ

一菓子類　一酒類（ラムネ子等ノ飲料ヲ含ム）

一巻煙草類

第六條　貯藏調味品構内ノ飲食店及休憩所ニ於テ來觀者ニ販賣シ場外ニ賣出セシムル可カラス

第七條　休憩所ノ敷地ハ廿坪以内ノ飲食店ノ敷地ハ六坪以内トス其位置ハ事務局ニ於テ之ヲ指定スベシ但シ第四條ノ飲食店ハ此限リニアラス

第八條　飲食店ハ事務局ニ貸付ヲ願ヒ又ハ建築其他一切ノ費用ハ願人ノ自辨タルベシ

第九條　休憩所ハ飲食店ノ建築ハ開會十日前ニ工場ヲ開ク事

第十條　休憩所飲食店ハ本會閉場後十日以内ニ取拂ヒ跡地ハ元形ニ復シ事務局ノ檢査ヲ受ケテ返還スベシ

第十一條　休憩所飲食店指定ノ期限間ニ建築物ヲ取拂ハズハ撤除チ怠ルトキハ事務局ニ於テ直ニ執行シ費業人ヲ追徴スベシ

第十二條　本會附屬水族館構内ニ設置スル休憩所飲食店ニハ本規程ヲ適用セス

東京府令第八號

農工商ニ係ル事業ノ改良進歩ヲ圖ルノ目的ヲ以テ協賛者タル名義ヲ附シ發明者ノ依リ明治三十年十五日付東京府令第百四十九號ニ當選ニ屆出ツベシ

ハ左ノ事項ヲ記シ規則書アルモノハ添付ヲ要ス

但シ官廳ノ認可ヲ得タルモノ及營利ヲ主トスルモノハ本文ノ限リニ非ス

明治三十年一月二十七日

東京府知事　侯爵鳥尾小彌太

一名稱

一資格

一目的及事業

一役員ノ氏名

一事務所ノ位置

前項屆出ノ後役員ノ更迭事務所ノ移轉ハ其都度會員增減ハ毎年一月限リ屆出ヘシ

東京府令第九號

明治三十年一月二十六日

東京府知事　侯爵鳥尾小彌太

東京府令第十號

明治三十年一月二十七日

東京府知事　侯爵鳥尾小彌太

髮付梳油製造家諸君ニ謹告

專賣特許　髮付梳油製造家諸君ニ謹告ス

二八一三號　發明者　近藤清次郎

◎パテントチイル　特性　◎透明無臭　◎發火點　華士三百七拾五度　◎比重　八百八拾五

從來世ニ行ハレ髮付梳油タルヤ本鑑ニ植物油チ合製セシ物ナルニヨリ熱ニ遭フ酸化シ塞ニ遇ヒ凝固シ其甚シキ至テハ腐臭ヲ發生シ貴女紳士ノ品位ヲ失フノ恐レアリ故ニ此邪古來髮付梳油ノ種類多シト雖モ一モ以上ノ欠点ヲ免ルヽモノナシ豈ニ之レ盛世ノ機ハ右ノ欠点ヲ補ヒ裝飾上衛生上ノ要件ヲ具ヘ今回弊店販賣ノ一大發明タルパテントチイル（礦物性油）ヲ以テ精製シタル香鑑（髮付）ノ付梳油世以來ノ一大發明タルコトヲ確信ス之レ特許保護ノ榮ヲ享受スルノ所以ナリ向本油ノ信用梳油ハ確ノ爲メニ愛ニ鑑定書ヲ寫シ左ニ掲ク

パテントチイル（礦物性油）ヲ以テ精製シタル香鑑（髮付）ノ

鑑定書

依頼者　近藤清次郎

一香鑑（髮付梳油）

本品ハ無臭ニシテ淡黄色無臭ノ礦物性油（パテントチイル）ナリ混然燥製シタル梳油ノ酸化ノ恐レナシ

髮付梳油ハ生ナリ油分ノ酸化ノ恐レアリ

本品ハ油分ノ酸化ノ恐レナシ

本品ハ油分ノ酸化ノ恐レナシ

本品ハ油分ノ酸化ノ恐レナシ

洗粉發賣

朝日のひかり粉　本舗　九華堂

定價　壹袋　壹錢　鑵入　五錢

弊堂製造ノ洗粉ハ今般販路擴張ノ爲メ一層原料ヲ改良シ香氣モ充分注意致候ニ付各位御試用ノ上陸續御注文ノ程伏テ奉願候

東京牛込區細工町　本舗　九華堂　小林幹治　敬白

廣告

高尚優美蒔繪彫刻
高尚美術漆繪彫刻

本甲臺蒔繪彫刻揃物櫛笄
惣張臺黑唐代生地繪金地
高評漆彫揃物櫛笄簪兩天一貫
推朱彫揃物櫛笄簪中差
新形朱推朱政子・政子鬢
各種共柳鬢糸政子形釵形
上等玉入簪向差長房付簪

東京市日本橋區橋町四丁目　小間物問屋　丸見屋善兵衛
電話浜花四百四十八番

陸軍海軍御用品　御生歯磨

商標

發賣元舗　東京市日本橋區通三丁目　米澤屋商店

特約大販賣

東京市日本橋區蠣殻町　堀井長兵衛
東京市日本橋區通鹽町　大和屋小兵衛
東京市日本橋區橋町四丁目　淺井本店

有明堂　安井孝輔

◎水晶おしろいハ今般一大改良ヲ加ヘ製造方一層ノ善美ヲ盡スノ佳品トナレリ而シテ此永晶おしろいハ夏氣ノミ必要ノモノト云ニナク寒サノ時節ニ用ユルヽハ面部ノあれヲ除キ又あれタルヲ治サシビヘノ切ル、トニ云フ事ナク皮膚ヲなめらかニスル事頗ル妙品ナレバ試ミニ御用ヒノ上其功能ヲ知リ給フコトヲ祈ル而已

自分義明治廿九年六月中水晶おしろいハ東京市有明堂登録商標水晶おしろいノ元祖化粧品ヲ製造發賣仕候處右名稱ニ係ル登録商標ノ認知セラヲ侵害致候爲メ本舗有明堂ノ商標ヲ取監ノ身ト成リ告訴ニ及バレ終ニ以テ名共相成タル處仲裁人有明堂ニ於テモ示談之義ニ付テハ右名稱ノ使用ヲ禁ジ又ハ今後ノ取締ヲ厳重ニ申入候處告訴人ノ仁恵ヲ感シ和解成下告訴願下ノ共ヨリ歎願之次第御承諾成下告訴願下ノ我々早速謝罪ノ意趣ヲ以テ名誉毀損ノ廉ヲ被ヒ御陰ヲ以テ無成雖有ノ身ト相成ヲ以テ御免ヲ願ヒ度ク御願ヒ申上ル

明治廿九年十二月二日

大阪西區江戸堀南通一丁目六十六番屋敷　篠原源三郎
大阪市區瓦町四丁目五十六番屋敷　伊藤幸次郎

水晶おしろい　特約大販賣所

東京市日本橋區馬喰町　平尾贊平
東京市日本橋區通油町　藤五郎
東京市日本橋區小伝馬町　柳下
東京市日本橋區橋町四丁目　大和屋
東京市日本橋區橋本石町　丸見屋善兵衛
東京市日本橋區橋山町　松澤常吉
東京市日本橋區横山町　前玉
東京市日本橋區瀬戸物町　忠兵衛
東京市日本橋區銀坐一丁目　鈴金八
東京市日本橋區横山町　佐々木玄兵衛
東京市日本橋區瀬戸物町　三谷
大阪市南久寶寺町三丁目　吉兵衛
大阪市南久寶寺町三丁目　荻原
東京市日本橋區橋通八幡町　三善
大阪市中之島　仁藤
曹洞宗印刷所　筒井
曹洞宗印刷所　多久島
曹洞宗印刷所　中久
曹洞宗印刷所　小久保
曹洞宗印刷所　唐津
曹洞宗印刷所　若松
曹洞宗印刷所　東入
名古屋市東廣町　伊藤
名古屋市末廣町　近藤
名古屋市末廣町　村上
名古屋市末廣町　太兵衛
黄檗宗印刷所　造酒
黄檗宗印刷所　四ツ目屋
黄檗宗印刷所　芝之助

他全國到ル所御最寄ノ小間物店商藥店ニ於テ取次販賣セリ

特約大販賣

東京市日本橋區蠣殻町　東京市日本橋區通鹽町　東京市日本橋區橋町四丁目　大和屋小兵衛　淺井本店

有明堂　安井孝輔

發賣元祖　有明堂　水晶おしろい　無鉛毒　有明堂安井氏製造

宮内省傳奏賣捌拝領
帝室御用達賞狀受領
陸軍御用品

英國北濠倫敦正眞正銘
高等醫學士先生傳方
THE KUKUSAN UKAUKAUSE UM, KOPAMURI
J. TAKMINE
工フ商會
TOOTH POWDER
TOKIO FUZIMAKISEI.

製造發賣本舗　東京下谷区根岸町八十番地　藤卷商店
東京芝區田町橋廣小路　野澤商店
特大約販賣
仝　金銀座二丁目　佐々木玄兵衛
仝　日本橋區馬喰町一　平尾贊平
仝　横山町二丁目　江川支店
見本品御入用ノ方ハ御申越次第直ニ御郵送可仕候

○蓬山霞

（第四回）

一瓢子稿

斯る所へ梶原の田邊見三平太、文箱捧げて玄關へ來り頼まう〜とつから聲、聞くより田鶴はしたなく、マツリヤウと云て今の趣きやのお使がまうしたで有分なぶつて遣りましやうと玄關の方へ行かんとするを綾衣の暫しと押留め、幾一さま誰何樣のお使とも知れぬものを無闇わつていなりませぬ梶原樣なら尚の事御太切にふ扱かひ申上ざやといふ尾について那如も莫ぬんに又しても田鶴のいはしたない誰何樣のお使にもせよなぶるといふ法いやありませぬ繼してお取次ぎ叮嚀が肝腎三指の作法をシツカリとして御口上の趣ひきを承まはるに梶原樣のお使ならば御目役目御苦勞に存じます旦那樣は唯今御不在綾衣樣にも御氣分が勝れ遊ばされお奥に御寐なつて御坐まする間重ねてお出を願ひ度う存じますと斯う申してお歸し申しやう夫が又右衛門之進樣のお使なら能い折柄の旦那樣へ御不在綾衣樣へ御退屈遊ばして在せられますから御自身にお越しあそばした面白いお話しなとお聞かせなされて下さりませ左すれば姫君樣へ嘸かしお喜こび遊ばして下さりませ斯う申上ぐるがよい夫で宜しム御坐りましやうなと綾衣の顔をさぐり、聞かれて綾衣の顔に薄紅梅の色を染めつゝ何うあと能い樣にしたがよいといふ言葉さへ嬉しとなるこの上なしのうゐ〜しさ見るより田鶴は頬笑みながらあい〜あいの切戸口開けて彼方へ急ぎける。

三平太はもぢかしがり三平是れ程呼ぶに人ないか何故出て來ぬ為に成なくも梶原平三景時殿の御子息より御使に立つた邊見三平太樣の御入來で御坐るぞエヽ聞とうひの殿ぬけイヤ腰元ども出居らぬかいやいと腰を枯らして地團太踏む所へ田鶴い漸やう立出でつゝ田「是ハ〜嘸かの御待遠さに御坐りまする生物旦那樣は御不在で御坐まするが何れよりお越しになりましたか御不在でも宜しい事ならば承たまはり申しやう」「イヤ御不在、御不在ではソレ結構な底で其もとい耳が遠いと見ゆる女身共が最前から此通り閾際がヒツ付いて聞こえぬとの念入の聞きやたらば今一度申さうかエヽ憚かりながら某い當時鎌倉幾中に在て權勢比ぶ者もない梶原殿御子息より當渉館の姫君綾衣とのへ渉みお渡しうさう爲御苦勞ながら罷越した邊見三平太と申す者ちや何と見振かい似合はしからうの」「ハイ左樣

で在せられまするか三平在せられまするかといふ怪しからぬられますると彌に申せ底で御使の口上ちやお聞ふだお方ヤさゝ、に此文箱の紐御解かせ御面目到なれと赤き心を推量せられ綾衣との御手づから渉覧せられ綾衣との御返事を下されうらば大慶に存じますとの御口上ちや聞の間えたかのと差出す文箱を見ながら田鶴い手にだも觸れず三平太の顔を詰め居しが鑑て弗と吹出す、三平太眼に角立て三コリヤやい何で身共を笑ひくさるの口上が分らぬか」「ハイ能う分つて居りますのと顔つき出すを扶ひ」「エヽ氣味の悪い置いてたも今日は姫君樣ちと御不快でお奥に御寐なつて入つしやるから此文箱い為預かりて追て旦那樣より御返事すとお答をつかまつて下さりませ」「ハイ是は飛でもない事結城城に見られて堪るものか左樣いふ取次い心元ない身共が御難所へ罷り出て其御でお返事を賞ムと致さう案内なされと立上るを左りさせじと押留めて自づと聲の高くなるを綾衣始め敷妙等の慶元共も開け付て氣遣いしげに立出る姿見るより三平太ッカ〜と進み寄り文箱を綾衣に差出すを敷妙は横より奪ひ點何の御用かお預かりませ」「ア其御目付つて何しやらせサア〜早うと急立てられ止む事を得ず三平太い狐風〜として歸り行く折柄傍への築垣の影より顯れ出たる一人の男「綾衣殿久しく御意を得ずさぬ雅今とめにかし」の梅の詞釋イヤモツ無ろさ入ましたと突然に云はれて一同い吃驚。

何れよりお越しになりましたか御不在でも宜しい事ならば承たまはり申しやう」「イヤ御不在、御不在ではソレ結構な底で其もとい耳が遠いと見ゆる女身共が最前から此通り閾際がヒツ付いて聞こえぬとの念入の聞きやたらば今一度申さうかエヽ憚かりながら某い當時鎌倉幾中に在て權勢比ぶ者もない梶原殿御子息より當渉館の姫君綾衣とのへ渉みお渡しうさう爲御苦勞ながら罷越した邊見三平太と申す者ちや何と見振かい似合はしからうの」「ハイ左樣

する餘り分り過て可笑さにツイ笑ひましたハ姿の無念御許され下さりませ」「成程靈が聞もれば可笑しなる事無理でない此度だけハ許して遣ハすシタガそもそも毎時ながら美くしい事ちやの綾衣殿築やましからう光もちやや〜對手といふハ誰あらう梶原殿の御子息命に掛ての懇婚迫付婚禮の盃をなされて日本一の婚取り濟まじやれもしも婚が取り度いならツイ目の前に居る男色と黒は付氣立い清く鼻に坐生は猛すれと何處へ出ても行儀の能いシヤンとした能い花婿ちや何と不承知いやあるの」

●義春府の大敵例　今回の囚徒破刑に因んで曾嘉府大敵の擬様を記さんに將軍及び御臺所などの葬送濟みの後も七日目或は二十一日目に執行さるゝを例とし當日は御徒目付二人、町奉行與力二人、同心七人、因獄（石出帶刀）等上野老共に御別當を命ぜられたる寺院の門前にて申渡し直ちに放免し手當として青銅一貫文を給し谷中門より立去らせたり又門外に六谷の者の呼ぶ事拳七心の配下」非人詰め居りて此罪人を追ひ拂ふ習慣なりしよし以上の輕き罪人にて其人數僅か五六十人に過ぎず其式も極めて簡短なれと身分ある者は町奉行所にて「今度例々院機御他界に付罪を免す」と申渡し士分者へは「難有心得さつせへ」町人へは「難有思へ」と申渡し士分は其支配調、其邊より受取人出頭し請書を出し町人は家主五人組親族連署の請書を出して引取の習慣なりしと

●郵便切手の小錢代用　近來各地方一般に補助貨の欠乏に苦み居れるが大分縣日田郡地方に於て殊に銅貨及び一圓以下の小貨幣拂底し困難を極むるに付日田銀行にては此困難を救はんため十錢、二十錢、五十錢と三種の郵便切手を補助貨に代用せしめ來る二月二十五日を変換期日と定めて發行したるに一般に便利を感じ居れる方法は切手を袋に入れ表面を薄くして封入の印紙を見え透く樣にし裏面は厚紙となして持扱ひに便ならしめるよし

金融の順途及現況

金融の緊縮は政府の財政計畫如何と日本銀行の營業方針如何とに依り變ずるのみならず事業の盛衰賀沓の消長及び重要農產物の豊因に依り動さゝるに以て前途を猜想するは難しと雖ども之を其大勢と現今の趨勢とに照み往々大勢と現今の趨勢とに照み往々大勢と現今の趨勢とに照み何とを比して金融界に於て金融界に至大の影響を及ぼすべき彼の事業公債六千萬圓は政府は出來得べき丈け民間の市場より募集する見込なれと已むを得ずんハ官金を利用して國庫負担とすべし而して官金を利用して一時の融通を爲すに至ては其事業公債を募集するに過ぎず而して其結果は官金の需用者に對し以て

の賣繁きもの出でゝ再び不振に陥るハ金融界に於ける大勢の然らしむる所にして亦偶然にあらずと東京朝日新聞ハ云へり

●生蕃事情　林知事拵蕃の調査に係る同管内南仔脚社及び和社生蕃の事情を掲ぐれば左の如くなりと高雄總督府の報告に見る

蕃社の組織　該地方に於ける蕃社は通事社丁、土目、蕃丁を以て組織せらる通事は蕃語を解する土人にして蕃社以外の交通便利なる地に居住し總て蕃社より産出する物品を取集し彼れの生活上必要なる物品と交易を行ふ通事以外に其專権至らざるなく以て過當の利益を占む社丁は悉く蕃地に居住して通事の使役に属し其要求を蕃社に傳へ若くは社中の勞働者を使役して交易品の運搬に従事す土目は所謂社長にして社内一切の事を指揮監督し社事ある時は蕃丁を率ゐて其衝に當るべく因て土目たる者は性來の膂力に富み公平にして且剛膽自らに勝るの技量を要す而して之を經驗するに非ず蕃丁は社内一般の蕃男を輔け狩獵其他の業に従事す

地形　南仔脚社は隘寮溪に沿ふて山麓の稍々平坦なる部分にあり東西北の三面開通し北方は山を負ひ其近傍二十丁乃至一里内外は一圓蕃茫たる茅野なるも其居住地凡十餘丁歩は四圍鬱蒼たる樹林地たり漢谷には多くの芭蕉生育し平坦部を開墾して耕地を成せり又和社は南仔脚社を去る一里半の東南位に在り東南西の三方に山を控へ北方の一部開通す居住地及茅野開墾地等の狀況ハ大低南仔脚と大同小異にして其居住地より耕作地に至る間（一丁乃至廿丁）茅野を掘て四五尺幅の道路を開通するも其以外は一尺幅位の小徑あるのみ和社の居住地の平前約五丁の所に小河あり長七八間もあるべき籐の釣橋を架す蕃人の工事としては頗る觀るべき籐の釣橋を架す蕃人の工事としては頗る觀るべき籐の釣橋を架す蕃人の工事としては頗る觀る

如し此外居宅の傍に獣骨なども以て装飾せる小家あり是等共同宿舎の類にして何れも家屋も清潔漂と王と七人居宅の如く臭氣甚しきものなし

食物　栗を以て常とし芋、蕃薯、蒸質等は蒸して狩獵者共等の水鳥に下して過ゝたるに引換へ都て下に入り口へ増加し其入り込んと人々は是れ亦借家住みの者多ければ自然家に不足を生ずるの勘定なるに一方にては市中の諸商賣は昨夜より引續き沈静不眠の有様なれと未だ店を引拂ふて田舎に引込むなど云ふが如き切道の場合にてもなければ此方より明家を望むべくもあらず旁々仮家拵成にて家賃の如きは新規の借人に取りて今日の値段より一割乃至一割五分位も高くり居ると云ふ

◎小兒の洋行

三遊亭圓左講演
今村次郎速記

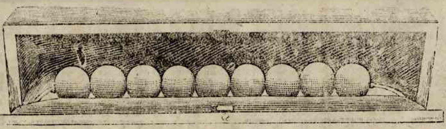
子供の洋行といふ話しを申上ます、只今は誠に結構な世の中で御坐いまして、乳を召あがるお子様方までも學校へお通ひになり、幼稚園なぞゝ云ふ所が出来まして、繪を見せて文字を教へられるといふ事が御坐いまして、此後へ無學の者がなくなり、坐ながら外國の事までも御案内になれます、一寸カパンを一ツお持になって「旦那どちらへ」「一寸亞米利加まで」と直隣へ一寸お往へ行きます、と直隣へ一寸お往へ行きまして、直ぐ結構な世の中へ相成ました、俳しく昔とは今と變りませんのは親子の情愛でございます　奥御免なさい　奥ヨヤまア……サアお前が成さい、さうもお久しく御無沙汰を致しました、お老さんの家で逢ひます事、今さらよっぽど出掛ける用事でもなさるに就て、其息子さんにお嫁が欲しいといふので、お前は供の時分から氣心も知って居らから、お前が宜いと思ふ者なら能度宜いが、さうか一ツ世話をして貰ひたいとおっしやるので、ア、云ふお家だから隨分宜い處から申込みのありますが、財産があるの持参金があるのと云ふのの却って好まない、（只氣立のよいのがはしいと被仰るので、私しも種々考へたが、當家のお花さんならばチッキリ宜からうと思ふので、口數も利らなさらんし、手も書き読み綺麗に出来る、縫物も出来る、細工も美し意匠もなさるし、第一親孝行で貴にどうも感心な娘さと私ども話した處が、大層旦那の氣に入って是非世話をしてと頼に仰しやるから、お前さんの事を話しなると、阿母アハ引取て宜いからといふ話しで、

諸商賣は昨夜より引續き沈静不眠の有様なれと未だ店を引拂ふて田舎に引込むなど云ふが如き切道の場合にてもなければ此方より明家を望むべくもあらず旁々仮家拵成にて家賃の如きは新規の借人に取りて今日の値段より一割乃至一割五分位も高くり居ると云ふ

餘まも宜い口だから御相談に出ました、とうで御坐いませうお遊んなすつたら奥、どうも難有う存ます、大層結構な話しで御坐いますが、何と云ひますか……　奥何と云ひますかと云つて、親孝行なお老さん、お前さんが往けと云へば往くに極つて居ます　奥さうで御坐いますけども、實に結構な話しで居まして　奥へ話らん者と云つて、其嫁が浮気をする様な御婦人でないが、其對手の何者でございます　奥夫が郵便の長で御坐います　奥へエ夫なら阿母さんを云へば眼ものなもので、郵便の長といへば大したもんだ、どう云ふ風体をして居ます　奥洋服を着せてねへ　奥それ強氣だ、餘ッぽど給金を取りますか　奥エ、五六圓しか取れません　奥五六圓……郵便の長をして居て五六圓とは可怪だね　奥夫おねへ鴛頭笠を被って手紙を持て歩行ので　奥ハ、夫ぢやア配達ですね へ、私しは又郵便の長といふから大した人だと思って　奥ナニ郵便を配る長次郎といふ人だから、夫で郵便の長と云ふて居ました　奥アハ、大笑ひだ　奥夫がねへ夫を云へば前さん小兒が出来たんだ、處が小兒が出来て見ればワ、ワ、して居られない　奥と云ふのでだい國へ出掛たのさ　奥だい國……外國だらう　奥さう／＼外國ぢ、姿しい何だか分らないが、其異人の云ふ事を修業して來ると云つて出掛ました　奥どうも恐れ入りますな、小兒が出來たのでワカ／＼して居られないから、外國へ往て勉强して來ると云ふ、精神の實に感心なやつだ、何も見上たもんだ……夫ちやア阿母さん御安心なさい、必らずともに出世をして來ると達へて、今に左り國扇でせう、さう其樣な事がなけりやア中々お花さんが御亭主に持つ氣遣ひはない、話らない者に引拂るやうな御婦人でもないと思つた、左樣でございますか今に貴度が出來ますか……夫でも又あがりますか、お揃ひ申も致しませんで　奥どうで致して……左樣なら出て行た、入れ替りに一人の婦人が參りました

した二歳になる小兒を負て　奥阿母さん只今　奥ハ、ヤイまアお歸りか、どうしたへお前い今朝早かつたから草臥たらう　奥姿もも腕車に乗らうと思つたが、無益な錢を遣ふのも思つて歩行て來ました　奥さうへ、就てハお出ましい話しがあるんだ、實は今源兵衛さんが欲いと云ふのでて、前店の息子さんのお嫁さんが欲しいと云ふのの話をしたんだとコア、聞した處が大層大旦那の氣に入つて　奥ハ、源兵衛さんが遠い處へ往て仕舞たに、待て居た處が歸つて來るかどうか分らないが、私しの考へでは、やはり嫁に往た方が宜からうと思ふんだ　奥ハ、併しながらマアお前の了簡でハ小兒を他人の手に預ける訳にもゆかなければ、私しがエレキでもなく何でも吸はして……　奥阿母さん、何と云ふ　奥ハ、奥ちゃ乳の代りに呑せる方がマシだ　奥ハ、それもヤア牛乳で御坐いませう　奥ハ、なんだか私しゃ、ツパリ當今の事は分らないが、さうして　奥ハ前は嫁に往く氣のないかへ　奥阿母さんそんな事を被仰いますが、今ハ便利の世の中で遠い處へ往て居ると來て居るから、少しの間辛抱して居れば直に歸つて來ます、どう才其樣な事を云はないで此小兒の成長なるのを楽しみにして居て下さい、折角長さんも一生一番の事に姿しが外へ嫁にて行き、歸つて來た時に姿しが外へ嫁にて行た間たに何様な感ずるか知れない、彼の人の歸つて來るまで姿しが孝行をしますから、嫁に行く事は堪忍して下さい、どんな事をしても阿母さんの困るやうな事はしないから　奥ハ、エ私しゃ前が那うも遣て孝行して呉れるから、嫁に遣りたくも何とも云へず、只お前の未がどうだか楽しられるから、開れた儘にッコリ云つたのだが、お前がさう云へ堅い心に居るなれば、モウ何にも云ひませんサア、人形でも居るだらうから、早く寝たら宜かろう、私しが床をとってあげると、娘八二歳になる小兒に乳を呉れましたが、私しが床をとつて寝たから其儘スヤ／＼眠りました未完

專賣特許人造珊瑚珠



今般弊舖に於て發賣仕候人造珊瑚珠の儀は製作者多年の研究を以て始めて發明し專賣特許の榮を得たる者にして實に純粹の珊瑚珠と毫も異ならず從來の「ゴム玉」「明石玉」の如く卑しき品に無之古渡珊瑚珠特有の性質に至る迄化學の作用を以て其儘に摸造し候へバ實に高尚にして貴婦人令孃方の御需用わらせらるゝも決て耻しき品にわらず玉類に鑒識ある人と雖とも決して眞僞を見分る事能はざる程に精巧精美を竭し殊に何年御使用相成とも變色の憂ひ無きのみならず永く御使用相成に從ひて自然光澤を增まし恰も古渡り珊瑚珠と識別するを能はざる程にて實に不思議の製作なり且つ變色破損等なきは弊堂に於て保證仕候萬一右樣の欠點有之候節は何時たりとも御引替可申上候

但し取次御望の御方ハ兩店孰れへなりとも御便利の方へ御申越相成被下度候

〔注意〕弊舖發賣の專賣特許人造珊瑚珠など、云ひ觸らし僞物を販賣するやに聞及候へバ御購求の節ハ商標御覽の上御買求の程偏に願上候

爲替ハ下谷局並に神田局兩所宛郵券代用一割增

丸玉緒メ類

〇四分玉	一個に付 十錢
〇四分半	同 十五錢
〇五分	同 廿五錢
〇五分半	同 卅五錢
〇六分	同 五十錢

特別製

〇四分玉	一個に付 二十錢
〇四分半	同 三十錢
〇五分	同 五十錢
〇五分半	同 七十錢
〇六分	同 一圓

根掛丸の玉

〇三分玉	一掛 卅三錢
〇三分半	同 六十錢
〇四分	同 九十錢
〇四分半	同 一圓卅五錢
〇五分	同 二圓

東京下谷池の端仲町廿九番地　貴金屬美術袋物商　**玉寶堂**　飯塚伊兵衛　謹白

東京市神田區須田町六番地　鼈甲珊瑚珠類小間物商　**長岡商店**（電話三百五十番）　謹白

特約大販賣店

横濱市伊勢崎町　高田五郎
越後國中蒲原郡白根町　富井久平
伊勢國津市立町　廣田商店
富山市大字總曲輪　西田美信
京都市五條通高倉西へ入　北村政七
名古屋市末廣町　近藤太兵衛
武州川越町　山田屋周次郎
札幌南一條西三丁目　野原昌三郎
大坂市東區南久寶寺町三丁目　小栗小三郎

小間物化粧品各種

色白くしきめこまかになる　**花王洗粉**

元祖煉リスリン入造麝香製　**艷自慢**

色白くし肌うつくしくなる　**めさまし石鹼**

芳香卓絶純良煉石鹼　**都すがた**

西洋花筏胼凍瘡荒性によし　**きめのはた**

定價　大瓶廿錢　中瓶十錢　小瓶六錢

東京市馬喰町　金城堂　**大野金五郎**

定價　鑵詰十錢、瓶詰六錢、大函五錢、中函三錢、袋入二錢

商標登録御免許

日本一流　㊀大

御釜齋洗粉

東京通油町　大和屋小兵衛

一弊舖製造ふしの粉義元祿創業以來江湖諸彥ノ御信用ヲ博シ販路益隆盛ニ相成候段奉謹謝候然ルニ近頃弊舖商標㊀大ヲ僞造シ粗惡品ヲ販賣スル奸商有之候間何卒商標登録御免許篤ト御注意被下度願上候也

附言
●取次賣捌ハ府下幷ニ各地小間物店賣藥店荒物店等ニ有之候間御最寄ニテ御購求奉希候
●弊店商品目録御入用之御方ハ御報知次第早速郵送可致候

東京市日本橋區通旅籠町二番地

化粧品問屋

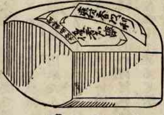
大和屋佐野小兵衛

東京牛込

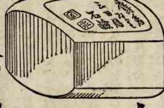
安齋永舍製造香石鹼

之廣告

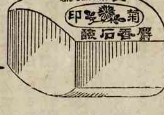
優香



三日月



菊印



特約販賣東京小間物問屋各店

江川商廛賣品廣告

●鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
●舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
●舶來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
●舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國幷ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々相撰廉價ヲ以テ販賣仕猶一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地

發賣本舖　㊤上總屋　**江川金右衛門**（電話浪花三百十九番）

同町十四番地　小間物問屋　同　支店

梅子製若販賣

沼倉商店

東京日本橋區通塩町一番地

●普通廣告より甘倍ひ高き

無雙新發明

定價十錢

一鍋

御直段

一鍋一打入
一打以上　七十二錢
十打以上　六十六錢
卅打以上　六十三錢

當分ノ中煉磨香一打ニ付引札二枚宛ノ割合ヲ以テ無代進呈仕候

御相談可仕候

○煉磨香い未だ天下に類なき新發明品として多量の磨香を配合し美なるしび光も夏季あれば芳香強く可からざる良品なり

○煉磨香い惡臭を防ぐ臭ひ高位貴人も接近御生上ゝ可からざる良品なり

○煉磨香い御安際廣く諸君に對し爽快を感じむる佳品也

○煉磨香いを所持せしに効験を有し効験千金の効ひ以て知るべし

○煉磨香い惡臭を防ぐ臭ひ高位貴人も接近御用の品れば自身男女共身体適宜の場所に塗擦を所持せしに効験を有し効験千金の効ひ以て知るべし

製造元　本舗　日本橋區横山町二丁目　清水清香堂

發賣元　問屋品　田中花王堂

關西代理店　伊藤鍵谷角尾　脇田盛眞堂

名古屋　東京　大阪　佐野尾

同　岡山市　同　馬關　同　大內常太郎　同　盛岡市　同　新潟　同　村田藤七三

同　高崎市　同　仙臺市　同　富山町　同　大和屋　同　大崎帝國衛生堂

同　井上作次郎　同　本町　同　豊岡　同　通町　同　仲仙町　同　四日市　同　大和屋

同　商店　同　青山町　同　近江屋　同　横山町　同　橋本町　同　九丸屋　同　仁善堂

同　富岡初太郎　同　張屋　同　横山町　同　橋本町　同　岩倉衛生堂

同　横山町　同　尾張屋　同　馬喰町　同　銀座　同　馬喰町　同　銀座　同　馬喰町

同　横山町　同　藤田盛

反古ホゾベ

▲火の用心の辨（承前）　作者　不詳

立退くときにも完身で出ずに鐵物類小道具手頃の品を提て出るべし燒落て後早く手補に細引をつけ井戸の水を汲あげて土藏穴藏の邊の火を消すべし井戸側やけて釣込まるゝものなれば常の釣瓶と格別に汲みにくきを用ゐすべし桑山鼠水は少なくとも常の鍬樂のみには洗ず火炎の折には必ずも釜おゝ金物瀬戸物類を入れ重箱本箱鏡臺針箱も紐にかゝらげ石鐵物の類を重りとなし桑水に入る時は助かるべし重りなければ浮上りて半分は燒失すべし盥を上へ重ねおくれば火は急に燃通らず小唄地獄太立の類は火を防ぐ便りにならず類みに思はゝ燒死ぬべし總て煙りは水の上に覆ひて三四寸の間あるものなれば首を出て水に入るとも煙りに限ひて必らず死すべし水邊にて火に包まるゝ時は衣類を水にひたし天空より被りて早く逃るゝの外なし板を袋の如く組み其上に道具衣具の類をのせて水にをたゝきおれし流せば助かるべし總て火災のさは大根を持ち陽てその汁を飲めば煙りにむせず若し煙にまかれ息絶たる人には大根の絞り汁を口に入るゝ時は即座に息を吹きかへすべし又荷物の間に火の子落たると知らず稍上おきて燃あがる事あり用心すべし大風の後は必らず雨降るものなれば燒して雨の心得あるべきなり非常の心得誰とても是を知らざる者はあらねども非常の心得誰とても是を知らざる者はあらねども非常の心得誰とても是をもて常にこの大概を心にとめて置くときは事にのぞみて必らず益ある故に畫槊のために記すものなり　（畢）

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十二年八月廿五日）

祭禮取扱掛　小口名　年番主　共

山王神田祭禮之節能出し練子其外裝束心天鵞絨を切入みの鼠の尾其外（金糸相用ハ偽有之都而花美等之儀は致間敷旨堅々申渡置ハ間組々の者は不及ヤ町役人共迄相制ハ慶所ハ致し不申ハ品を下に者　上覽所前は不及ヤ組之者等目に掛りハ塲所を相通りハ旨相慎不埒に成ハ此度神田明神祭禮前水り置迫て急度可申付ハ　右之趣は世話掛り名主年番名主ゟ此度祭禮に罷出候間々は不及ヤ急度可申渡候　右之通後　町御奉行所被仰渡ハ間前書の趣當祭禮に罷出ハ者共少心得違無之樣一人別に申合せ精々可申付旨去子年年山王御祭禮之節申渡置ハ間忘却可致樣は無之ハ得共其節又々洩ハ樣可申聞ハ　丑八月廿五日

（同年九月廿一日）

申渡

惡孝者特の者等有之御褒美被下ハ節勸善の教示にも相成ハ間以來ヤ渡書寫町々自身番屋ゟ張置ハ樣可致

右之通後　御奉行所被仰渡ハ間具旨可存尤以來奇特者等有之御褒美被下ハ節の被仰渡書寫可相渡ハ

右之通被仰渡奉畏ハ段御請御帳（印形仕置ハ以上

丑九月廿一日　南北小口年番名主　共

（同年十月十一日）

享保寛政之度ト町ゟ觸渡置ハ　御主意に不違樣先達而申渡置候處右觸面の趣年を經候儀にて其後彌示候趣も有之候に付猶又此度左之通相觸候

一不益に手間掛り候商直の菓子類料理等向後無用

一能裝束其結構なる相見へ候間向後手輕の品相用ひ可申事

はせ弓吾淵刀は之板の類金物並笛用ひ申間敷事

雛豈をわかびん人形の類八寸以上可致無用候右以下の分は慥未の金入とゝなす類の裝束不苦事

高直の鉢植物賣買今令停止候事

きせる其外もてあそび同前の品に金銀造ひ候儀は勿論彫物飾物類其外蒔繪等結構に致間敷候事

一女の衣類大造の織物織物無用に可致候繼金糸等

今樣東京流行とうきやう　ちんまつ　形製造廣告

壹個入美麗なる箱入
自慢形

壹個入美麗なる箱入
東京形

壹眞入製
御匂入
麝香形

壹眞入製
並製
錦形

壹眞入製
並製
いろは形

壹個入美麗なる箱入
花王形

紋しるす特別製

右之外御注文に應じ何形にても製造仕候に付何卒御注文ゟ乞み九月御注文の節は工場年中立込居候間御品切の前に可成御ゝ越被下度候

三橋商店まつはし形製造部

小問物問屋　東京日本橋區蛎殼町三丁目番地
白粉微別　壹合物　本舗　三橋兎喜次郎

帝國堂營業化粧品割引定價表

宮内省御用

一キレー水	定價	大瓶	特別製瓶	小瓶	壹個
	割引	金壹圓	金五十錢	金二十錢	金十五錢

一キレー石鹸	定價	壹個	磨香入	壹個貳十錢	金二十五錢
	割引	壹個五錢以上	拾打以上	五十打以上	五拾打以上

一キレーおしろい	定價	大瓶	特別製瓶	小瓶	壹個
	割引	金二十五錢	金十五錢	金十五錢	五十打以上

正眞無毒おしろい

一音羽菊	定價	爆白粉	特別製瓶	小瓶	金二十錢	中瓶	金八十錢	大瓶	金十五錢	壹個
	割引	壹打以上	五拾打以上	六百打以上	二五掛	三五掛	四五掛	五五掛	六五掛	七五掛

一白毛即座染	定價	金二十錢	壹個	壹個	壹個
	割引	十五錢	以上	以上	以上

一ちゞれけ直し	定價	金三十錢	壹個	壹個	壹個
	割引	拾五錢	以上	以上	以上

一製劑取引店則	一現金ニテ製劑元價金五圓以上掛注文ノ方ニハ最初一回限リ引札十枚柱掛看板ナリ呈上仕候	一全元價金三拾五圓以上御注文ノ時ハ引札三千枚額看板御名義入ニシテ呈上仕候	一全元價金五拾圓以上御注文ノ時ハ引札五千枚両面美麗ノ袖看板呈上仕候	右何レモ御請求ヲ受ケテ呈上スル者ニシテ御請求ナキ時ハ呈上セザル事アリ

各國有名賣藥化粧品
薄利卸問屋　山崎帝國堂商店
東京市神田花房町角電話本局四百三番

入候ても小袖表一ッに付代銀百五十目を限り夫より高直の品買置致間敷ハ、雖ども右に準じ可申事

一町人共分限相応結構の品着用いたし候ハ、髪のかざり等迄大造成品相用候者有之候ハ、組の者見懸次第厳石碁所名前等相紙し町役人爲差遣直に奉行所へ召連致吟味候間左様に可相心得事

一櫛笄髪差の類金ハ勿論不相成鼈甲も細工入組高直の品相止ム櫛代銀百匁を限り笄髪差右に準じ下直に仕込可申事

但髪結に細工の色切をこしらへ又は女の用ひ候はき物鼻緒等高直の品買置致間敷候事

右之趣風俗寛政度并其後も相類候趣も有之候處累年世上花美に相成諸人身分をも不弁立派を競ひ且又外見ハ不目立様にても内質高金なる品々銀に賣買いたし候者共も有之由に候たとへもてあそびの品に無之候とても度々類似候儀を當世の事の様相心得候より果鼈等間に成行法度を背候段不屈の至に候併是迄の儀は容別の　御宥免を以先御咎の不被及御沙汰候薩雖有来存今般厚き　御主意を以風俗改り候様被　仰出候儀に付不軽相心得可申候尤是迄仕込置候品も可有之候に付来寅年より急度停止たるべく候條熟面の趣相背候者抜有之ハ役人相廻し該当類物相紙し厳重可申付候尤御咎歎改め方いたし候者或は猶中にて往來の者を捕改め候儀等決して無之事に候若右体之者有之候ハ、其者を留置早々可訴出候白今奈修高價の品武家方に候共譲候者有之候ハ、来行所へ相伺可任差図候

右之趣は武家方へも被　仰出候間此旨町中ゟ不洩様可嬬知もの也

丑十月

右之通從町　御奉行所被仰渡候間町中家持借家店借裏々名代仕等迄一人別篤と爲申聞入念可相嬬候

丑十月十六日　町年寄役所

◉南鶴紀行　旅眼石

十返舎一九

ことしひつきの末つかた、彼にしもわらず、れもふことのありて、常陸、しもつふさのうちなる、鹿島、香取、息栖の、三つのみやしろに、詣ではべらんとて、旅のまうけあらましに、ものし侍りて、なには江のよしのわしくとも、ふもひたつ日を、きちにちとなしつゝ、鳥がなく、あづまのみやことをあとになし、玉くしげ、ふたつの國の橋をわたり、立川をますぐに、はら竹のしもとをすゝめて、やがてさかさいのわたしを、わなたにこへて、たどり行はどに、朝もよる、如月ちかく、所ゝならにきへのこる、野づらの雪に、若くさのいと青う見へたる、うつはりの磨、はる〳〵ときこへて、糸のを玄空のうらゝかなるに、かのれやちの、こゝろにかゝる雲もなくて、くはへきせる、はゝかゝるべくもあらねば、すゝ火打はなたず、たばこのけふり、霞むかとおもはゆるばかりになんはやくも、市川の御關所をうち過けるに

我ながらりゝしく見やるあしもとゝ

これわのうらへの紺のたびたち

舟ぼりのわたりより、道づれになりたる人ハ、かなしたはれ歌の通ぐさくゝ、麗の豆成といへる人のよし、これかれをかたり合ゝ、行樹のさまにいたり、笹屋にいるに、やすらひはべる、こゝいうゝ宿の名所にて、ゆきゝへの人、あしをとゝめ、うゝ宿をば切、たゝんとを、せちに乞ひあれゝ、うつもきゝるもあるとひとり、いまだをのこしらへ、はてしもあらず見へ、べれば

御ていしものの手うちのうどん持かねて

いづれも、ゆきゝの者をながくのばせり

さゝ屋のあるじ、あやもしげなる色紙短冊を出して、予に歌かけよと乞ひはべるに、紙とよみ置たる歌をかゝてとらせゝ、其包たる紙のはしに歌かけと色紙短冊出されしに

これ七夕のさゝやなるかも

あるじとやた、、嚴せよと出したる書に

こんにちの玉柳とて花にとゝく

枝の砂をもはらひとをすれ

（以下闕出）

ライオン齒磨の特効

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はゝ普通齒磨と共賣を異にして香氣頗郁として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比にして且藥品を常らしむると雖ども齒を浩し總て口中一切の病を患ふる無きと疑なし是れ本品の特効なり江湖の諸賢續々御試用の上淳高評あらんことを乞

東京特約店　小林富次郎
横濱特約販賣　天下一目支店　中村商店
日本橋區通町　村田藤七
日本橋區鍛冶町二丁目　安藤井筒堂
日本橋區江戸町二丁目　佐々木玄兵衛
特約店　平谷會社

郁の花

天下無比衛生的顔料優等化粧品
芳香馥郁白美艶麗頗有効靈妙奇劑

樣白粉價
金六十錢　金六十二錢　金五十錢　金三十錢
水白粉價
金十錢　金十二錢

製造發賣　東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地　東京莊園堂　齋藤泰助

餘興

◎山中鶯　青山　松風堂

こゝろあてに山また山（わけいれはかをみ隠れにうくひすのなく

◎歸雁　〃

かきりなきはるの名ごりをいとゝてし花を見すてゝかりかねのゆく

◎小間物商報の隆盛を祝して　岡山市　堅田可成

小氣味よき花の盛りや雪の梅
雪解や谷間にたかき水の音
見る物の司や富士の朝日かけ
商ひのやうにハ見へず悪想文
梅櫻て來るや梅見の新知文

◎平尾氏の齒磨ダイヤモンドを賞して　同人

鶴の脊の光りのとけし初日影

●おとし話し

◎芝居道樂　横濱　可秀生

旦那番頭どんや、幇ハさた飯帰りませんか　番へイ　旦那　誠ぜうも那奴にも困りますな、今朝早くイ浄屋敷へ浄金の浄用に行たさも形も見せない、まるで鍬稿玉の使ひ見たやうだ、蛇度また出先から芝居へでも引ッ掛ったに違ひない、芝居も見る店の者の現縛りにもなりません、今に帰て來なでハないが幇のやうに疲られて困りますン、第番へイ　なるほどあらうから能く足下から意見をして見て下さい、足下の意見が感じなければと拙ころでハないから揚當します、揚當すれば親でも子でもなやから、役者にでも乞食にでも何にでも勝手な者になるがよい　馬鹿〳〵し、と大層な浄立腹で居らッしやいますと、問もなく夕刻に及んで若旦那が戻つて參りましたがどうも這入り憎いから小さな聲で　若ナイ番頭……番州……皿屋敷　番へどなたですエ、番州だの皿屋敷だの　若ハテ　番イヤ自己だよ　若ハテ、若旦那ですか、何だって門口に立て居らッしやるのです……れ這入なさいませ　若　番指に力譜がないが店に居るかい　番居る處ぢやあもりませんを先刻から全然うで章狐のやうになつて天窓から煙を出して、大變な浄立腹です……どうも幇にも困るからお前からでも意見して見て呉れ、聞入れなければ揚當ります……揚當いますが、さうなると困りますの揚當……揚當いのお前ハ云つて聞ないのに者、繩をつけて警察の浄厄介にもしませいから、蛇度棟梁の宅へ預けるね、さうなるとまた眉毛を落して身形を俳優に造ると、爾するとまた近所の別縁社会中の大評判となつて、是非業顔が見たいものだと、夜の明なん中からドシ〳〵押掛て來るから、其時い貴公が下足番で一人前一錢づゝ取ても千人なら十圓一萬人なら百圓さ、一日百圓づゝの商法になりやア顔る上等ちやアないか……どうだい一番下足番の役を勤めちやア　番浄常熊ちやアありやせんせん、早く大旦那の處へ行てお話をなさい　番阿父さん只今　旦只今ちやアないが其で何處を遊んで居た、又例の芝居だらう貴樣のやうな者ハもう自家に置くとロ出來ないから揚當する何處へでも行て仕舞なさい　番頭　親子の縁も今日限りにします　番ちやそと申して夫りやあんまり　旦足下まで假聲を遣うやうでハ家が治まりませんから、幇と一所に暇を出します　番ありがたいね、さうなりやア私しが女形でた前が立役さ　番さうして阿父さんの方へ　旦ようなさいます　番親父ハ何にも出來ないから馬の脚にでも使うのさ

▲俳句募集

〔入花二錢（二より二錢）〕〔郵券代用不苦〕　初午

雪中庵雀志宗匠撰

當季五句合

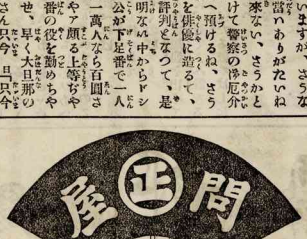
題　露　雪解　柳　歸雁

右二月十五日堅ク初句三光五客ヘ美景皇上秀逸以上當小間物商報へ掲載披露

企骨皮道人

玉詠屋所　東京市淺草區須賀町十九番地　西森武城

尚々浄投句は可成鮮明に一組毎に別紙に浄認め可被下候



弊店義年來名古屋扇製造販賣罷在各地御得意樣御愛顧ヲ以而益業務盛大ニ相進候段難有仕合社員一同奉謝候扨一昨明治廿七八年戦爭凱旋以來御祝品トシテ需用一時ニ相增シ各地御店樣ヨリノ御注文相嵩ミ夫故昨年中ハ品拂底ニテ折角ノ御注文モ應シ兼候場合尠ナカラス遺憾限リナク奉存候依而本年ハ昨年中ヨリ熟煉ノ職工相增新意匠ヲ盡シ時好ニ相適シ候雜品澤山製造有之何程多數ノ御注文ト雖迅速御間ニ合セ可申上候間何卒澤山御用向被仰付被下度偏ニ奉願上候也

東京日本橋區堺江町瓦丁目

平谷合資會社

燒　八錢。拾錢。廿錢。特別製　卅五錢
水　八錢。十五錢。　同　卅五錢

○此うら梅おしろいは眞正無鉛毒製にしてつきよくのりよくはけをちる事ー又硫黄溫泉臭氣ある所に入るも決して變色する事なー

嗜用人　新駒屋　中村福助

發賣元　赤心堂

日本橋小網町二丁目鎧橋通

發賣代理店　東京横山町二丁目　**田中花王堂**

特約　京橋區銀座三丁目　大阪日本橋區瀬戸物町　賣店　大坂南區戎橋北詰

木喜彌平　上州高崎田町　上州藤岡　武州八王子　武州菅梅　武州川越南町　武州熊ヶ谷國田屋　武州前橋立川丸屋　上州伊勢崎町星野清次郎　上州高崎田町　上州藤岡　上州新町　上州安中町　靜岡市上魚町　同宇都宮日野町　相州小田原　名古屋米國町　四日市仲町　伊勢松坂新町　上州安中町　靜岡市上魚町　遠州袋井田町　三河國豊橋　伊勢津市　四日市仲町

森田林七　岸田屋時次郎　山田屋周次郎　商店清吉

泉屋茂十郎　**櫛屋文次郎**　**船澤屋菊五郎**　**堀部屋喜平**　**村上彦太郎**　**若松屋春吉**　**岡部武兵衛**　**棒屋藤吉**　**谷屋六蔵**　**井上平次郎**　**大西屋定助**

松澤八右衛門　**玉置金八**　**山中商店**

京橋區銀座三丁目　**松澤八右衛門**

模造或ハ偽造品有乞商標御注意且品質比較

◎品質純良芳香馥郁ナルハ乙女肌也全國一手發賣元

元西洋花王だいあ祖

東京横山町二丁目化粧品卸問屋 **田中花王堂**

此乙女肌は冬期の販賣品とのみ御承知の御人有之哉に候得共本品ハ自然下に用ひて最も有効なる製剤なれば夏冬共御使用あれば皮膚の軟密に光澤を顯し且つ多量の人造麝香を配合すれば使用後香氣馥郁として匂袋を携帶するが如くなれば夏期に致り候共續々賣行あるは發賣以來御販賣諸君の既に御承知に候得共新規御販賣者に在ては夏期に致り

◎價格低廉賣方最多數ナルハ乙女肌也

◎全國無限ノ和洋小間物賣藥店に販賣仕候

鹿敢變色霉は香氣消滅等の患ひ有之哉に御提念有之候得共本品は從來の花袋又は同種類の模造品と大に製方異なれば右等の患無之事は弊堂の確証する所なれば續々御販賣被下一度奉希上候

特別割引

一貫定價金二一錢代　三貫以入　一函代
五函以上　掛　三十六錢
五十函以上　三十四錢五厘
五七半掛　三十三錢
五十箱以上金看板
一故無代呈上
看板雛形三分ノ一

◎全國特約大販賣所

東京油問町 **村藤**
橘町四　佐々木町目
馬喰町二 **平尾善**
横山町　**近源**
馬喰町二 **森本**
横山町二　佐々木
銀坐一　駿州鳥田町
通鹽町　遠州濱松
横山町二 **脇田**
横山町一 **龜忠**
横山町一　大橋
横山町一 **大小**
横山町一 **柏善**
横山町一 **岳善**
横山町二 **江川**
馬喰町二 **三善**
馬喰町一 **萬金**
馬喰町一　秋田
若松町 **富岡屋**
橘町四 **大野**
吉川町 **尾井**
馬喰町四 **武德**
淺草町　**玉置**
瓢戸物町　**大木**
鍛冶町

東京横濱伊勢四ッ目　佐々木町目
駿州大宮依田町
豆州三島伊勢町
駿州鳥田町
静岡傳馬町
横濱中通
札幌
小樽
江刺
陸奥青森
陸奥八戸
陸奥三ノ戸
陸中盛岡
丸善
常屋
信久
松村
清水
棒藤
濱新
笹重
井田
大内
井上
中島
櫻井
鳥兼
近八
寺澤
三久堂
東京小間物商組合各店
關西特約店
特約販賣元
みよーの園
工藤
佐瀧
野原
村住
杉江
杉原
紙幸
船五
櫛屋
杉江
星野
川田
若春
和茂
宮鹿
瀧川
井上和
吉岡
深谷
塩山
宮
萬屋
富
尾
大
武
玉
大木
丸善
平尾
近源
森本
脇田
大小
柏善
岳善
三善
萬金
富岡屋
大野
尾井
武德
玉置
大木
常屋
信久
松村
清水
棒藤
濱新
笹重
井田
大内
井上
中島
櫻井
鳥兼
近八
寺澤
三久堂
東京小間物商組合各店
關西特約店
特約販賣元
みよーの園
工藤
佐瀧
野原
村住
杉江
杉原
紙幸
船五
櫛屋
杉江
星野
川田
若春
和茂
宮鹿
瀧川
井上和
吉岡
深谷
塩山
宮
萬屋
富
尾
大
武
玉
大木

ちごさくら

なまりおーの

此みよー野の「ちごさくら」は世界無毒性白粉の元祖にて專ら責任を帶び着實の製造を爲す者に候間御安心の上御注文を乞ふ

販賣店
東京小間物商組合各店
關西特約店
特約販賣元
大阪南久寶寺町二丁目
寺澤三久堂
東京浅草區新鑄田町
みよーの園

農商務省特許專用商標

殘寒却而覺凜冽候得共各位愈ゝ壯榮欣賀此事に候陳者豫て御懇情を蒙りゝ蔭を以て日月に隆盛を極め罷在候弊舗製造ぬれがらゝ之儀近時物價の非常に騰貴致候所柄にも拘らず依然卸直段を据置にし且品位を精撰致候結果にや從前に數倍するのゝ注文を忝ふせられ候段難有奉謝候就ては洋製の器械備付以來製造に於ては萬々差支無之候得共唯仕揚の一段に當り兎角職工の手廻り兼候旁々此先益々ゝ注文の相嵩み候に至ては或い出荷の延引する場合等も自然出來可仕と奉存候併し目下の處にては精々職工を督勵一斯るゝ差支は必らず致さざる樣略々準備整頓は仕居候得共萬一右樣の儀有之候ては折角のゝ厚意に背き甚以て遺憾の儀ゝ坐候間何卒此意ゝ汲取被下今後は全く品切に不相成候内前以て御注文書御差廻被下候樣仕度此段御得意樣御一同へ豫め謹告仕候也

大阪淸水橋西ノ辻角
本舗 益田第一堂
東京日本橋區久松町
支舗 益田第一堂

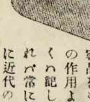
當時洗粉に其需額多し之れも皆香氣を專一とし有効之品少なく故に藥舗等般各種御夜俳優諸君の淨好に應じ衛生化粧に相成る藥精致した此自慢ぬかい弟一色を白くし美麗の光澤をませんに現し。鉛毒を滑し。淨顏われ痕。にきびのそばかす。あせも。日にやけ顏の皮ひけ。ひゝ。しもやけ。はたけ等總て皮膚の毒を取りきめをこそやかに艶を飽し證日々淨試用の方は白粉のり能く進上去も邪氣を拂ひ有効無比の洗粉は自慢ぬかの名爲に不背實に奇ゝ妙ゝの品疑れば淨試用の上澤山淨注文の際偏に本希上ゝ

調劑舗 天沼軒 比留間民藏
特約大販賣 東京横山町一目 天野源七

●本品の特色●

- 醫通品に比し價格
- 低廉にして量多し
- 光澤頗る艶麗にして
- 而も永く損ずるもなし
- 太つたるもひなし
- わるれひなし

製造元 遵陽山名町 森川積善堂
東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋
本舗 善丸見屋善兵衛
電話浅花四四八番



新製麝香煉石鹼

近來種々樣々の石鹼あり之雖も未だ完全の品に乏し因て藥舗は國家の爲め之を憂ふる事入しかりしが今回醫學士諸博士等熟れも當世に於ける斯道專門の大家に謀り猶ほ藥舗が多年の經驗によつて發明したる新劑の秘密品をも併用し遂に此天下無比絶良最佳の石鹼を製造發賣せり勿論理化の作用より成りたれば其功驗の不思議なる事一々枚擧に遑あらず發表くの記して現品に添あり殊に芳香の源都たるに進んに梅櫻桃李の上にあれば常に之を用ひて皮膚病の豫防となり又之を懷にて白袋を代用す實に近代の稀品なり一度御試用の上多少に拘らず續々御用仰付られ下されん事を偏へに願ひ奉る

東京市日本橋區馬喰町二丁目
麝香煉石鹼類製造發賣　淺井支店

今般父贅平死去致候處各地御得意諸君より電報又は御郵書を以て態々御弔詞を賜り候段難有奉存候就ては一々御苦禮可申上之處全國多數之御方々殊に混雜之際にも有之候旁乍略儀紙上を以て茲に御厚禮申述候敬白

明治三十年二月五日

男　平尾貫一
平尾銑也

昨四日故平尾贅平葬送之節は遠路之處態々御會葬被成下難有奉深謝候混雜之際御尊名伺漏も可有之と存候盡略儀なゞら紙上を以て御厚禮申述候敬白

明治三十年二月五日

男　平尾貫一
平尾銑也
親戚一同

毎月五日十五日廿五日三回發行賣捌金壹錢五厘一ヶ年分前金五十錢（全國郵送料）爲替ハ屋國郵便
編輯兼發行人　西森武城
印刷人　後藤清之助

（一）　（第四百十九號）

明治三十年十二月十五日　（毎月二十五日・毎月六日）　逓信省認可

東京小間物商組合報

電信局報務代用不苦（但五厘切手二個）
郵便料（一五號活字廿二字詰一行三回迄冷錢四回以上八錢）
日刊廣告料
東京市日本橋區蠣殻町七番地
東京小間物卸商組合事務所
發行所

雜說

○僞物あり御用心　骨皮道人

僞物あり御用心。紛らはしき品も尠からず。能く〳〵商標御認めの上御求めなどと云ふ事ハ。專ら諸商工の製造販賣上に於て。自家の製品を保護するが爲めに必要の語とのみ思ひ居りし。豈に圖らんや人間の僞物が出來て。然も骨皮道人自らが骨皮道人を保護せんが爲めに。僞物あり御用心の一語を以て各地諸君の御注意を促さるゝを得ざるに至つて。ハ。切も亦奇妙奇手烈なる世の中と謂ふべきなり。元來諸商品諸製品物には。專賣上意匠商標版權の如き。各人夫々の條例ありて政府之を保護する が故に。若し是が僞物を造り類似品を發賣する者あらバ。忽ち捕へて打殺す。眞逆打殺す譯には行かざれど。直ちに訴へて相當の處罰を求むるの權利あり。然れども我人の文學社會に於て。雅號若くは別名なるものは。別に政府の保護あるにあらず又法律上の支配を受るものにもあらざるより。勝手に骨皮道人と名乘て諸方を徘徊する者あるには困るなり。現に先頃の臺灣新報にも骨皮道人の名を附したる寄書ありたれども。小生は知る寄書を爲したる事更になければ。蓋潮にも骨皮道人と稱する人のあるなるべく。又此程友人花笠が筑前博多に到りたるとき。東京より骨皮道人が來て居るとの話しを聞込みしよ。友人ハ大いに驚ひ骨皮道人ハ近頃小間物商報編輯の爲めの非常に繁忙を極めつゝありて。近歸よりの招待をさへ謝絶して居るとの事のみならず。ツイ五六日以前面會せし砌にも敢て旅行するやうな話しも聞かざりしが。夫とも何か急用の出來て此地に來りしか。若しも道人が來て居ならば。旅中の徒然を慰するに內心掛けなる幸ひなりと。取物も取敢ず早速彼宿泊せる旅亭に至りて。東京より來て居る西森と云ふ人に面會し度しと云ひし。左樣な人ハ宿泊せずと云へり依て更に骨皮道人と云ふ人ハ滯在して居るかと尋ねしに其先生ならバ被爲在いますとの事より初は西森が未だ性を疑して居ると見へるか兎に角本人に面會すれば事態に判然すべしと思ひ。其骨皮道人に逢度のであると一枚の名刺を出して面會を求めし處。下婢再び出來り東京にて此の如き人は知らざるの云面會の儀は平に謝絶をる旨を傳へり。是に於て本其實らく。他郷にして故國の人に逢ふの故國に居て知己朋友に逢ふよりも嬉しきの素より人情の常なるに東京の人と聞て却つて面會を謝絶するとハ。最も疑はゝく怪しむべき事ども なり。更に其年齢人体等を尋ねるに。年齢い殆んど六十歳前後にして人体ハ肥大且つ長身ありとの事より。実ハ大いに落膽もしつ呆れもしつ。夫やア全く僞物の骨皮道人であると。旅亭の主人にも注意を加へ猶は同地の知人及び新聞社等へも夫々告警して歸りし由なれを。此頃又九州地方にも骨皮道人があるとも見へるなり

（未完）

雜報

▲日獨追加條約

日獨追加條約に關し過日來獨逸公使館書記官委員となりて時々協議會を開き昨日は獨逸側より出席委員合等の協議を爲しつゝあり一週一回位の會合にて遠からず終局せん模樣なり又現在公使ハ追加條約の結了次第歸國せんなどは盟て聞き居たるが書記官の專任委員にもある事なれば或は同條約の進行如何に關せず歸國するに至らんとの說あり

▲公債利子と稅金

政府ハ民間金融の閉塞を謀る爲め毎年六月及十二月に拂渡すべき公債の利子を稅金に繼續へ繼付することを許すべしとの說あり例へば六月に請取べき利金を四五六月中に納付すべき諸稅金として納付するとを許し又十二月に請取べき利金を十月若くは十一月に納ひべき稅金として納付することを許す等にて斯く幾替へ納付を許す時ハ公債を所有するものに取て頗る便利なるのみならず大に金融を助くる便利あるを以て或ハ本年度より之れを實行するに至るべしと云ふ

▲米國新大統領の施政方針

クリーヴランド氏に代りて新に大統領となる可きマッキンレー氏が就職後に於ける施政方針の綱領なりとて公言せる所は左の如しとなり

第一　海關稅の稅則を直に改正す可きこと但し此改正を爲す に當りて商福和なる保護主義を主と し極端に稅率を高めて專有の風を助長し又は政府に相當の歲入を收むるを妨くるが如き弊なからんことを期とす可し

第二　外國と締結す可き條約に就ては パリソン將軍が大統領たりし時の相互主義を復活す可し

第三　國內に流通する都て貨幣を して金貨と權衡を維持せしむることを計る可し

第四　セントルイ府に於て合衆國の鑄造せる黨錢の趣意に從ひ萬國復本位制の實行に力を盡す可し

第五　政府は紙幣の消却を使用する剩餘を國庫に生じたる時は早速これを行ひ他の通貨を以て代はらしむることゝ公債を發行して此事を實行するが如き拙策を避て可し 元と金貨本位の基礎を固ふする爲め紙幣と大藏省證券と銀行券國債金中の一部に用ふるを許し以て此二者を消却するの策を施すことを可し

第六　國立銀行の策を更に強し市府の銀行をして小都會に其業務を廣げしむることを計る可し 斯の如くすれバ其結果自から地方の金利を低落す可きのみならず今ます〳〵大都會に資金の集中んとする傾向を防の効あらんと信ず

第七　政府の歲出に對する經濟の法は萬般の事業の實效を顧み勝勢と相一致して背かざるを勉べし

◎英進社の齒ペラシ製造の大震張　本所區南二業町なる英進社は日本馬三氏の發明ブラシ製造に苦心したる甲斐ありて今は舶來品にも數等優れるの品を製出するに至り猶此來國人の嗜好に適して常に數多の注文を受るまでに少を進めたれども何分目下の場合にて其拂機の如く爲め恐く其注文に應ずること能はざるを得ず往々謝絶せざるを得ざる等の事あるハ恰も寶の山に入りながら手を空しうして歸るの狀傷みとて今度同工場を株式組織に改め其業務を大に拡張し同品輸出の横濱市場町一丁目九番地同市蛭天通り四丁目黒田重兵衛及伏同市尾上町五丁目長谷川榮太郎の諸氏を始め其他東京にても既に有力家七人名の賛成を得て近日中に申込みあるに至りたれば其製表を見るも遠からざるべしと云ふ因みに記す元來業なる他の製造業に比し大いに工手を要するハ論の事なれども我邦と米國とは工賃の等差甚だしき相違あれば隨つて彼の國の製品よりハ頗る低廉なりて輸出販賣するを得べく彼れ又此に着目して頗り注文を求るの有樣にて現に目下注文を受けつゝあるの分をみにても向ふ一年三割以上の利益あるの豫算なり

彼の日本極品蝋燭町なる安藤印櫛磨益々好評にて製造販賣するシカゴ土産印櫛磨は製品の船來に優りて且つ價額も低廉なるを以て此頃は各地よりの注文も非常に聚多し由い筆て人々も知る處なるが今度川上氏庶に八十日間世界一周と云へる新演劇を演ずるに付き幸ひシカゴ土産の櫛磨は同演劇に因みて日々數百個を無代價にて來觀者へ振れ出せしに是非常の喝采を博したれば其感意を表する爲め去十二親成知己數十名と共に最も嘗なる饗宴を催したり

■紙金牛の流行　一時の流行ハ廣物をして忽ち千金の價を生ぜしめ今日萬錢を投じて購ふ所明日路上に廢棄する即ち新潟縣下にて一頃紙金牛の流行非常に甚だしく先組織米にて一頃紙金牛を購ふ所の家毛を買求して牽くも之を購ふ求め翌日早やなるに枯死して一家雖散の不幸に陥る者あり山國運は其間に立て利益を壟斷し殆んど底止する所を知らざるより遂に同縣にては取締規則を發布するに至り同縣下を通じて數百萬圓に上れりと萬年青の流行を追ふて家産を傾けたるハ古き例しにあらず愚みも大概にすべし

○大阪築港と帝國議會　第九議會に於て大阪淀川改修工事費として國庫金九を一千三百圓計りを十ケ年を期して下付する事になりしより茲に一轉を得て勢を挽回を望むの慾情の甚度を進めッイ隣なる神戸港の純然たる國港あるに拘らず更に又此地に國港を築造せんと論見を起し今や帝國議會の協賛を求めて莫大なる國庫補助を仰ぐんとすでに熱心運動する人のあるは頗て及べる處なるが議問題に付き此程の萬朝報に左の如く報せり

同西には國港として神戸港あり此の國港を距ること十里にも足らざる大阪の川口に別に國港を築くべき謂れの有りとしも思はれざれば大阪の港は無論地方港なり大坂の築港の無論地方的築港問題なり、去れば是迄の目論見を投じて些少の淀治川尻を掘撫の有樣より聊か和船其他の碇繋に便利ならしめんと云ふ位に過ぎずして、其目論見が當に〳〵て遂に二千萬圓以上を要し國庫の補助をまで請はんとする今日の途方も無き設計とまで

○何故に斯くは脆弱なるか　此程築港の目論見は一つ治川尻に一体の沿岸の地面とは常に騰貴せしむる手段と爲るが爲め其地所の持主達が除に國に運動したるに因れり、川尻の沿岸は淀川より流れ出る土砂と紀淡海峡の潮勢とで寄來る砂と泥の爲めに年々埋まりて廣大なる地面となりたれ共此の爲めに年々埋まりて廣大なる地面となりたれ共此の爲めに一大築港の計畫が出たるが一大築港の目論見起るや恐く拔目無き大坂人の事とて殊に其中の有力者ハ陰密に手を廻して其早くも夫等の地面を買入れ猶築港問題を大にして其地價を騰貴せしめんと圖りたる是等の買入れ人の中には今の首相松方伯の親戚なりとの説にて、近來殖産興業の名目の下に官有の新潟縣下

●警衛上重要の新發明　去月九日發刊細育メタール、ツアイサンクに倫敦よりの電報なりと記載する所に依ればデリユツセルよりの電報にドクトル、マツヨはルツアンに於て脳髄治療劑を發見し又スタンデ、ヴヤイイロに於て熱病に罹り近頃漸くに黄熱病に罹る伊太利人ドクトル、カツカレリは黄熱病菌を發見し之に關する總て細菌學者として有名なる大學に呈出せりとまた又獨逸學者として有名なるドクトル、ニーマンは結核病に對する新治療劑を發見し此血清は結核菌を混入したる山羊の血より成るのなる由デーリー、ニユークの佰林通信に見えたりとかり

●種痘豫防　管外より東京市内及び品川町内藤新宿町板橋巣鴨町千住南千住町に轉居し又は來宿したる者は年齢五十歳以下にして明治廿九年一月以降種痘の證を所持せざる者及疫病の爲種痘を行はざる者は其證明書を所持せざる者は二十四時間以内に種痘を行ひ其證明書を受くべく又右各區域内の宿屋營業者は種痘を行はざる者に宿留を許さず犯したる者は二日以上五日以下の拘留又は五十錢以上一圓五十錢以下の科料に處し右は警布の日即ち去十日より施行の旨警視廳令第五號を以て公布あり

●弔詞と手向句　故平尾賛平氏は浅草に名望あり交際も廣かりし事とて氏の逝去を聞きつゝ驚れも哀悼の情禁と難きの餘り遠近の同業者及び生前親交の人々より日々到達する弔詞は殆んど數百通之の多きに及びければ今その重なるものを擧れば即ち左の如し

組合員平尾賛平君の長逝を追悼し謹く弔詞を呈す

明治三十年二月一日　東京小間物卸商組合　頭取　天野源七

五二會中央本部及五二會東京本部は東京小間物部長平尾賛平君の逝去を悲み同會餘興用茶其提張に靈座せられたる君が功勞の多大なるを懷ひ殊に哀悼痛惜の念に禁へず茲に謹く弔詞を呈し其誠意を表す

明治三十年二月一日　五二會　監督　前田正名
五二會東京本部長　森村市左衛門

弔詞

嗚呼平尾賛平君一朝二堅の侵す所となり藥石効なく忽焉簀を易ゆ回顧すれば君東西銀行の創立に執掌し爾來開業發達の景況を目擊せずして止む生等痛惜の至りに堪す爰に生花を靈前に供し讃て哀悼の意を表す

株式會社東西銀行
頭取　辻久米吉
取締役　辻金五郎
〃　長瀬富郎
〃　山口清七
〃　三輪善兵衛
監査役　杉谷庄兵衛
〃　川口與兵衛
〃　松林理助
支配人　間淵俊次郎

明治三十年二月四日

叉去十日下谷車坂町なる觀教會堂に於て十日祭を執行せられたるとき靈前へ手向られ及び我商報まで送り越されし弔歌句は左の如し

三十年來ねむごろに睦み七平尾氏の今年寒ン明る頃はからずも西の雲に　かくれたまひしを惜みて

大松を折るといかに春の雪　中庵雪

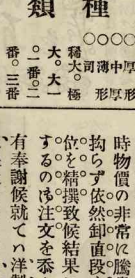
（記者註す同氏は前名松次郎と云はれしなり）

平尾氏の靈位を弄して　雀志

霞む奥かた手の磨の光り哉　春月
世ハ無事と御靈に告よ歸る雁　〃
しら梅の散て靈せぬ香り哉　〃
ちり際のてもうゝしき櫻哉　升喜
ちりてなを繁りの高し梅の花　碇豊田
平尾氏のみまかりしを悼みて
咲にほふ花の色香もわたし野の
つねにかをれあらぬ風にちりけり　牛込細工町　九華堂

●哭平尾賛平君長逝　西森骨皮

人世元來夢五碁。與君永訣有誰憐。跡天叫地乾坤寂。空掩梅花哭墓前。



種類

今様　流行　髷入　特約　發賣

稱大。○橋大。大一○。番二○。番三

厚司薄形

○別製燈心入
○千代田形　○小櫻形
○歌舞伎形　○新橋形
○歌舞伎形　○名譽形
○壽々女形　○本紺紙綿入
○特製燈心入
○最高等髷入
○花の君形　○丸見形
○製造元　東京四谷　惠比壽屋本店
○發賣元　東京橋町四丁目　丸見屋善兵衛
小間物問屋
電話浪花四百四十八番

農商務省特許専用商標

新發明
用用法
髮
ぬるかすり
鐵墨墨壺

殘楽却而覺凛冽候得共各位愈壯榮欣賀此事に候陳者豫て拙儀情を蒙りし薩を以て日月に隆盛を極め罷在候弊舗製造ぬれがらす之儀近時物價の非常に騰貴致候折柄に拘らず依然卸直段を据置にし且品位を精撰致候結果にや從前に數倍するのも注文を忝せられ候段難有奉謝候就ては洋製の器械備付以來製造に於ては萬々差支無之候得共唯仕揚の一段に當り兎角職工の手廻り兼候旁々此先益々は注文の相嵩み候に至ては或い出荷の延引する塲合等も自然出來可仕と奉存候併し目下の處にては精と職工を督勵一斯る差支は必らず致さざる樣略々準備整頓は仕居候得共其萬一右樣の儀有之候ては折角の厚意に背き甚以て遺憾の儀は平生坐候間何卒此意を汲取被成下今後は全く品切に不相成候内前以て御注文書御差廻被下候樣仕度此段御得意樣御一同へ豫め謹告仕候也

本舗　大阪清水橋西ノ辻角
支舗　東京日本橋區久松町
益田第一堂
益田第一堂

◉營業税の屆出　營業税法に依り一月三十一日迄課税標準の屆出を爲す各種の營業者中一兩日前迄各税務署へ屆出たるものは總數の六七部位にして殘り二三部は課税標準に付當局者と見解を異にしたる故障あるものなりと云ふ

◉各締盟國の專賣特許權　日獨條約第十七條は昨年十一月より實施に付各締盟國も最惠國條款に依り本條約實施前專賣特許に關する條項丈は實施せんとし既に英國は一月四日より實施せしが他の締盟國も目下夫々外務省へ交渉中にて不日實施の運に至るならんと云ふ

◉外人の登録料　日獨條約日英條約に依り獨國臣民及び英國臣民より我農商務省へ商標の登録を出願したるもの總數七百餘件の內既に登録濟の者も三十餘件に及びたる由なるが此七百餘件悉く登録濟の上は是のみにても登録料の收入は一萬四千圓に上るべきものなりと云ふ

◉大日本農會大集會　大日本農會にては本月開會の筈なりし小集會を廢し來る四月下旬より本會堂に於て大集會を開き農事上に關する演說、參事員半數改選、常議員廿五名の總改選を行ふ由

◉文部省の條約實施準備　文部省の條約實施準備委員は目下左の諸問題に付き調査しつゝありといふ

一國民の固有思想が世界的思想の襲來に逢へるを自然の結果として變動を就學生徒の頭腦に及ぼすべきは必然たり此變動に對して我が國風及び自主心を伸暢せしむるの法
一國語と外國語との關係、及び國語に變化を來たすときに於ける其敎授法
一宗敎、道德、風俗等に關し彼我の相違に對する我が德育の方針
一條約國子弟にして我國の學校に出入するものゝ取締り及び敎育法
一雜種兒に對する敎育の方針
一條約國人の設立する學校の管理規定及び本校の學校との關係
一敎育學校の取締法

▲最近登録商標摘要

■品名、化粧下煉香　平假名交り草書ねり玉子の四字　大阪府　伊藤清右衛門

■品名、石鹼　草書にて撫子と書下したるもの　大阪府　飯田定助

■品名、齒磨　地球儀の面內中央部分に隷書にて日本と斜記したるもの　同　植村兼次郎

■品名、洗粉　周邊所々蝕腐せる縱長方形の地の面上々部に扇の地紙形の欄を設け其左下方には地紙形に少しく掛けて上部に總附紐を有する上下弧形を爲せる栞を竪に置き其右方に花飾ある帽を戴ける左向婦人の半身圖に顯し其周邊に紫雲英と下方に薔薇花と書きたるもの　同　德田伊兵衛

■品名、石鹼　額と顋とを長く上下に延し新月形を爲さしめたる異樣の人面を左方に向けて書き其左方に洋服樣の衣服を着し帽を冠りたる一匹の兎が稍々右方に向ひて該人面の顋に腰を掛け兩手にて月琴樣の樂器を持てる樣を畫き所々に數多の花形を散置し全圖形の上部に兎月石鹼と隷書にて列書したるもの　東京府　清水友吉

■品名、同上　中間に一太線を狹みて內外數條の線より成る横長方形欄を畫し太線の兩內には數多波頭狀の線を連列せしめたる裝飾を施し以て周欄と爲し更に周欄の內邊に沿ひて畫したる子母線横長方形の內邊に接して子母數線より成る横長方形の左右邊中央の部分を弧狀に外方に凸出せしめたる區畫を施し以て內欄と爲し該內欄の各母線の兩上には短線及二個の点を交互に排列せる裝飾を施し又內欄の四隅の稍々三角狀を爲せる部分には各一個の唐草形を顯し更に內欄內には中央に横長方形の區畫を畫き其上下には數線より成り上下の凸出部三角狀に尖らし其左右兩端捲曲せる彎狀の布片を對置し又左右には各小圓形のものを附し又左右凸出部を弧狀に爲したる十字形狀のもの各一個を配置し而して横長方形の區畫には石鹼の種類を示すため「ベスト、マリイン」なる文字を特殊なる羅馬字を以て記入したるもの　神奈川縣　宮田りき

高等藥用齒磨廣告

製造本舗　京橋區幸町八番地　川口長春堂
發賣本舗（全）　銀座一丁目　佐々木玄兵衛

大評判無類飛切の格好

改良髷形販賣廣告

◉歌舞伎形
抑モ歌舞伎形及ヒ明治形ハ數年弊舖ニ於テ心勞ヲ凝シテ發明仕候以來全國至ル處大評判ヲ博シ然ルニ近來粗惡ノ摸造品ヲ販賣スル輩有之右ハ篤ト松葉屋池上製ニ御注目ノ上御購求アランヿヲ希フ

◉精心一到　お米形
此形ハ都新聞小說ノ畫風ヲ見習ヒ新案仕候品ニテ格好ハ至極見事ニ出來マス

◉都菊形　◉一等形　◉三舛形　◉忠義形
◉浮島形　◉新おはつ形　◉とんび形　◉牡丹形

右ハ孰レモ世間有觸ノ品トハ異ナリ第一原料ハ無類飛切物ヲ使用シ衞生上ト云ヘ格好ト云ヘ當世向キ至極適當ノ品ナリ

製造販賣元　東京下谷區二長町松葉屋號
明治形本舖　池上小十郎

登録　商標

此あぶしは醫學大先生の發明せしものにして第一染つき早く能く口齒を去り齒の根固め常に御用ひ給へば幾萬代も口中の患を覺へず眞に天下無二の良品なれば操正しき貞節の御方は神の敎を守り御用ひあらんことを願ふ

附言　尙東京小間物御商組合は勿論全國至る所の小間物店賣藥店に販賣致し有之候間御最寄にて御求めあらん事を願ふ

東京鬼一義太夫本板元

●製造本舗　東京市日本橋區濵花町廿七番地　五溪堂
●全國各地至ル所ニ取次アリ

新小町定價　大瓶金十錢　小瓶金五錢

露の香定價　大瓶金十錢　小瓶金五錢
八重ひとへ定價　箱入金十二錢　角瓶金八錢

●小賣御望之方ハ御照會次第相當御取次可仕候

鹿印煉齒磨ハ
良質佳味ニシテ衛生上
最効能アリ使用後精神ノ
爽快ナルハ本品ノ特色ナリ
發賣元　東京馬喰町二丁目（電話九二三）花王石鹸本舗　長瀬富郎

見れば是別人ならず梶原の一子源太景季にてありければ義経は内心ヨット嬉しく思ひて三歩迄廻りもせし心を察して老女の敷妙景季の方へ前へ寄り歎是は〳〵誰何様か存じもせしたら梶原様の御子息様用心厳しい此お邸へ何處からお入なさいましたと問るが如く問ひ掛る源太冷やかに打笑ひ曰何處から這入らうと身共が勝手ぢやと聞きさ度く此足に尋ねるがよいシタガ其處な綾衣殿左様いはなんせねばのぞ如何な源太景季でもまだ右京之進より身分が高い幸ひ此根を借りて御に詣し度い事がある腰元共は居ても要なし暫らく遠慮して苦しかるまいと云へば誰もて從がふ者なく背綾衣の氣色を察じて其場にい居るのみなるに源太は頭を高く焦立て曰エヽ何をうぢ〳〵なし居る遠慮せいと申すにとハッタと睨む例の口鶴曰オ、恐やの鮟鱇、那の腰を掛たお椽の足の片重ひがれ氣の毒なと嘲やきながら起んとする綾衣に押止め曰尊僧の者に遠慮に及ばぬ姿と一緒に元のお庭へ行きやと元來し方へ引返すを源太は周章立ムさがり曰ハテサテ夫ハ悪い了簡ぢやも長ムは留めぬツイ暫しの間此處に居て身共の申す事聞いておくりやれと無理に手を採つて椽へ伴ひ藤是さ綾衣との何うしたものぢや大磯小磯の君程城なくすら當世夫なひ女はせぬてもあ是程思ふ景季が心ちつとい察して呉たがよい最前此築垣に身を忍ばせて梅に擬へた話しを聞けば何うやら那の右京之進めが聊に取入つた様子ぢやが那な下人を對手に せうとい何うでも悪い了簡ぢやタ上先づ物に例へふなら身共を右京之進に鎧到底釣り合に なるものでは決ない何故と云へしやれ身共の親の景季時は故信頼が伊豆に超つて八枚の列官討伐の頃一時恥ひ不利となり伏木に隠れておはしたをお尋ひ申したが來公の初めて夫より千軍高馬の中を縦横無碍に往來した天晴の右京殿主と臣とこそ別れた實を申せば源家の恩ふ忘れ捨てこそ大江兵庫殿も北條殿も皆此梶原に頭は上らぬ先づ早い話しが今日の御式ちや親父殿の大名小路の樹形を出て行列の先供を拵へば通行人も路を譲り走る獣も隠れ潜む飛ん鳥の落る眼の前ちやや夫に引換え右京之進ハ斯ち世の中が治まつたりやこそ何うやら安扶持にも有けて餓死せぬ迄にいなつたれと高かない業に揚文書くが何の役夫な男を持たうより持て不足のない此梶原の頼みを聞くが順ばかりか請られ朝光殿の出世といふもの其處を辨へたら否といふ口でツイ應といへそうなもの早ういふて聞かしてたもと取付く袂を拂ひ除け 繰是ハ梶原様の言葉と覚えませ変張人であらうとも変大名であらうとも臣と名が付けば矢張同御身分の高いお方だけが滅多に人を笑はぬもの如何に姿が

一本の筆より外ッ持ち横知らぬ痩文人最前此方へ來る時も途中で那奴を逢つたれどイヤモウ其見すぼらしい氣の毒さイヤ錦倉に御大事とあらば出世したとて夫に伴て身を立る様な父上でも御坐なされて下さりませ様より離れて跡へ退れば様なる鎧式小間の役に立て太平の世の殺渡しとい那奴の事ちやお武家が延縄に錦倉といふ字を書て見さうこと打ちしかば景季もがめる顔を面手に押へて尻餅の儘起きも得やらず 景ア痛ア痛ッ身共を打ち居つたなイヤ此様臺めが肝心感所の話しの腰を ア痛〳〵痛めるとハ憎い奴よと感も拂わず起上り見て向腹立て景季を拾て高笑ひ立る景季は中に知れ問ひ立て笑ひ際るあ共が笑ひ忘れて

●生牛乳飲用の危險　牛乳い衛生上有益のものなれども生牛乳に細菌生息するゆゑ煮沸せずして飲用する時は衛生上危險なりとい醫學上の定說にして歐州各國にても英人を除くの外概ね煮沸して飲用するの習慣あるに吾國にては生乳を其儘飲用する者十中八九にして蓋し怪むべきの風なるが某細菌學者の說なりと云へを聞くに元來我國の乳牛い其種を米國産にもとるものなるが米國人い本邦の幼稚なる者貧しく最も購入する際血統ある乳牛を高價にて買付け本邦人に之を知らず輸入し來て種牛付となしたる爲め今日の處健全なるも甚だ危殆にして現に東京産婆養成所の如き幾年貰入の搾合東京牛乳商より納むる分十頭中半均三頭の外い概ね乳房其他に不健全の點あり搾斥せらるるまで種牛乳牛の不健全なること勿論なる故此實例に徵するも牛乳を煮沸して飲用すること必要なり而して牛乳中最も細菌に富むい東京市内の分なりといへり

●種痘經過中の心得　天然痘の流行い日に猖獗を極め其節に於ても種〻注意せる所ある由なるが今種痘の大家三島醫學士の種痘經過中の心得なりと云へを聞くに種痘に就て恐るべきは併發病にして實に丹毒膿毒等に在りと種痘丹毒は獨之に臓病膿腫、膿毒症及び敗血症等を併發するを以て頗る注意を要す又種痘に依りて梅毒の傳染する原因い第一痘苗に梅毒病菌を含有するもの第二種痘器械に該病菌を附着せるもの第三受痘の小兒既に梅毒に罹りつゝあるも其病候潛伏して外に現はれざりしもの等なり而して種痘後八日は可成八日間は之を護み衣服は清潔なるを用ひ就中藩門の糊強く又い地合荒くして痘苗を摩擦するの虞あるものい力めて之を遠くべし云へみと

●貨幣造り補助貸流通　大阪造幣局に於ける貨幣鑄造い客年末までに悉皆補助銀貨の鑄造を了り節年の事業如よりも五錢白銅二十萬圓の鑄造に取掛り傍ら一圓銀貨の鑄造にも着手し居る由なるが今回局に於ける鑄造高廿九萬餘年の比較を見るに左の如し

廿九年鑄造高		廿八年鑄造高	
五圓金貨	一〇四〇〇〇〇	五圓金貨	一四四一五
一圓銀貨	二〇〇〇〇〇〇	一圓銀貨	二〇五〇〇〇〇
補助銀貨	一一三一七一二四一	補助銀貨	一一二四一五二〇
合計	二三六一〇二八	合計	六四四一九九九

又補助貨に關し廿五年以來の流通高を見るに左の如し

	補助銀貨白銅貨流通高
廿五年六月末	二八八九一九八四四一四四
廿六年六月末	三〇三三五七七〇四五一
廿七年六月末	三一五三三三九九七三三
廿八年六月末	三三五一四七〇一〇三三
廿九年十二月末	三三七一四九八七七〇四三

廿五年以來の如く補助貨の流通高い比年增加して廿九年十二月末の流通高を廿五年以來の流通高に比すれば殆ど一千萬圓の增額なるにも係らず昨年末以來都鄙一般に補助貨の缺乏を訴へるものあるい種々なる原因あるべしと雖も重に日清戰爭以來支那人及朝鮮人の手に歸したる補助貨の回收せらるゝ事及び臺灣へ著しく補助貨を輸送し今も尙ほ續々輸送しつゝある事等によりて其結果內地に缺乏を來せしものなるべしといふ

●營業稅法と海產物商　營業稅法施行に付き橫濱海產物組合にて目下營業名義の伴に關し種々協議中なるが該營業從來の慣例に依れば從來販賣をあり荷爲換金立換もあり又見込販賣に依て荷物を買入れ營業を爲すあり從來名義も自然煩雜なれば未だ組出の運びに至らざる次第なるが假令へば同營業を物品販賣業とせば目下組合員と中には漁業者もあり休業者もあり實際商賣を爲し居るい十一名に過ぎ然るに同商より一ヶ年の賣込金額即ち稅關の無出金額に依れば百二十萬圓を下らず一人平均十萬圓以上の金額なるに實際一ヶ年一萬五六千圓內外の賣込に止まるもありて總て賣込金額の配分方に苦情起るは免るべからずまた一方に於ては組合の依託販賣業にゆらざれば如何なる名義の下に届出づべきか當業者は勿論當局者も頗りに研究中なりと

麝香入正眞毒なし

おしろい　音羽菊

第一無鉛毒おしろいなれば
おしろい燒に係る事なく殊につきよくの
びよく艶ありてはけざるは此白粉の得色
あり數年間諸種のおしろいを實驗せしと
雖ども此白粉の上に出る物なし

定價
共口摺合瓶小錢　大廿錢
特別製井五錢と五十錢と壹圓
水もしろい
小瓶　八錢　十五錢　廿錢
特別　五十錢　壹圓

東京神田花房町角
キレー水本舘

尾上菊五郎造製

一手販賣　山崎帝國堂
電話番號本局四〇三番
發賣元　橫濱長者町　秀善堂

特約店
日本橋區通町　銀座一丁目
橫濱町四丁目　馬喰町一丁目
仙台市大町　橫濱伊勢崎町

第四回內國勸業博覽會受賞
雲井織
一名改良琴の子
御婦人用
花元緯手柄（浮き出る地紋）
帶かは帶揚
金巾
織元　京都　坂根兄弟商會
販賣元　京都烏丸通り　加納作之助
製造一手　江州川並　外村新五郎
この雲井織は幾多の苦辛を費し漸々新奇を競ふの時代に於て今其製造し前代未曾有の發明製造なり
織物用の類なれ其機械を以て編めたる一種の新發明に依て頗る可
三浦綾織は織物にして今其織と紡ぎ方の經驗に於ける
清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るのみなら原
絲染料共に充分其精を撰び分なくはと幾度洗ふとも夫が爲め地
質を損し又の伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價
格も廉にして經濟の道に適へ流行
李節向何れ御好み次第何卒一度
鈴試用の上陳錄御注文の程伏而奉願候

東京發賣元丸見屋善兵衛
日本橋區橫山町一丁目
特約大販賣天野源七
日本橋區橫山町二丁目
特約東京小間物問屋各店

●屋位切捨の議　富の度衡と謂ひ錢即定漸く勝大して幾億何萬と云ふ場定に何錢何厘まで加算すれば一屋の値段を決し、國庫の負債の爲めに銀行諸會社の收支とに僅か一厘の錢を出納し、非常の勢力と入費を費やせし一奇話は少なしとせず政府の會計を始め全國の銀行會社の帳簿上屋位の爲に日々費せる手數と入費を計算せしには意外の巨額に上るべく而して其屋位の金額は何程の高にもあらざるべし是に於てか銀行間の取引には屋位を決行するこゝなる總て取引に屋位を切捨ることゝし遠からず之を實行する筈なりと云ふ市中の小取引に屋位の價格を全廢するが如き決定なれば銀行に貸付し鑑みるべし是に於て銀行間の取引は屋位を廢せんとならんには假令其得意に向つて支拂ふべき金額にも屋位を切上て錢とし受取べきものは屋位を切捨ることゝせず其便多かるべきを以て日本銀行なる名稱の之に贊成を表し居るよし近ひ～は一般に行はるゝに至らんか機運の善港上海銀行の如き日本人の吸引をもなせるに拘はらず十錢以下は切捨るの慣例なれども毫も不都合なく機運の生絲商館の中にハ其代價を支拂ふに間もなく既に何程の多くなる程なり何億萬と云ふ政府の歟庫に於ても屋位所なるが如きは煩雑の限なるべし時事新報）

●戸籍に關する登録税　登録税法實施の結果として毎年國庫の收入凡そ六百萬圓を增加すべしと云ふは前取の見積に準ずるに依ること、なれば凡そ二百萬圓を增加し總計八百萬圓の增加を來したる由なるが右に付進歩爲の如き登録税法中の一部即ち戸籍に關する部分を改正し入籍・復籍・結婚・養子等に屬する登録税ハ總て之を廢止すべし其の理由は戸籍に關する登録税ハ貧富一の税を課せられ既に不公平なるが上に大に人倫を破るの虞あり例へば貧者は登録税を免れんが爲め屆出を爲さず又養嗣子・同居者と僞りて僞めに私生兒・野合の夫妻等日に其數を增すに至るべし故に右に屬する登録税は凡て之を廢止すべしと云ふにあり而して之を以て國庫の負債の補定額には格別の差異なきを以て敢て之を減ずるべしと云ふ

●九州教育大會の問題　今春春季に開かゝる八縣教育大會の議事問題は左の如く決定したる由一兒童の心身發育は其齢何年より就學せしむるに適べきか

一尋常小學校の課業を四ヶ年にて安全に修業せしめ得べきか

一小學校及び中學校教員の不足を補充する方法如何

一高等小學校の女生徒に對しては男生徒と全く同一の教科目にて適切なる教育を施し得べきか若しからざるときはどうするか

一高等女學校は一府縣に少くも必らず一校を設置すべきことはどうするか

一學齢兒童を正當の理由なくして就學せしめざる保護者に對する制裁を加ふるの可否

一貧困兒童を就學せしめ教育の恩澤を受けしむる爲めに之を補助する方法如何

一寄宿舍に於ける生徒の訓練法は兵式的と家族的と何れを可とするか

一高等小學校と尋常小學校との聯絡を密接ならしむる方法如何

一各學校の試驗に於て算術科に落第者の多き原因並に之に應ずるの方法如何

一學務委員をして十分盡力せしむる方法如何

一九州に造船學校を設置するの必要なきか

一九州大學を設置するの必要なきか

●電話を電話に當用す　昔時フランクリンは紙鳶に因りて電氣の作用を發見したるが今や双紙鳶を電話の媒介と爲すに至れり英國ポーツマウス海軍司令官タッパー氏は紙鳶を以て兩艘の間に談話を爲せの法を發明せり其法たる紙鳶の尾に電線を付して之を空中に揚げ其一線の端は之を自船に保ち他の一線を以て空中の支持となし線の兩端を各其船の電話器に連接し同氏の試驗せる紙鳶は長さ六尺廣さ三尺くらいのものなりしが美事に成功して電話を假令しかりしなり

陸海軍御用・近頃非常に名高きはみがき

登録　SANITARIE DENTIFRICE Trade Mark

米國シカゴ府……グレード會社製

魯國商學務ハ殺の米國にて世界に其名聲ある醫科學博士を博し紳士貴婦人社會に賞賛せられたる良品なる以て遠回路日本一手特約を結び拾く販賣す其の衛生上有効なる是等ハ左の諸大家の信認と証明により敢て喋々を要せず

「ウィルハム氏の方劑にして當時シカゴ府に於て非常の名聲」

GRADE & Co CHICAGO

ソルカゴ西洋象印はみがき　定價　三錢　十五錢

米國ハーバード大學醫學博士……益田貢信先生御信認

米國ハーバード大學醫學博士……マクドナルド先生御証明

東京日本橋通三丁目　横濱山下町四番地　大阪市東區北久宝寺通二丁目　大阪府堺市甲斐町一丁目　札幌市南一條西三丁目　函館市十丁目　佐々木玄民衛　石田四郎吉　原田勝次郎　小松帶刀　澤田玉堂　佐野常民　林忠崇　小倉兵部　大石良雄　西村左兵衛　橋本左内　見附長次郎　水谷仁三郎　草野幸太郎

特約販賣店

東京日本橋區通一丁目　横濱市山下町四番地　大阪市東區北久宝寺通二丁目　大阪府堺市甲斐町一丁目　札幌市南一條西三丁目　函館市十丁目　佐々木玄民衛　石田四郎吉　原田勝次郎　小松帶刀　澤田玉堂　佐野常民　林忠崇　小倉兵部　大石良雄　西村左兵衛　橋本左内　見附長次郎　水谷仁三郎　草野幸太郎

安藤井筒堂

日本一手販賣

井筒油販賣店

東京日本橋區通天水町　東京日本橋區通天水町

○貴嬢紳士必の香料

登録　貴嬢紳士必の香料　人造鹿茸香　レンジャル

高級　特級

○新水瓶價二拾錢　○大瓶價五拾五錢

○小瓶價三拾五錢　○其他香料原料に用ゆる七拾餘種の人造麝香・佛蘭西産花・より抜き輸入し仙比類なき純良品にして高尚優美の芳香人造麝香の方今世人の賞讃となり愛顧の厚き恩を蒙り日々益々盛んなり御愛顧の諸君に對し謹んで謝す

莫大小製造卸賣店

東京市日本橋區横山町二丁目八番地

莫大小製造卸問屋　鈴木卯兵衛

市内は諸方各地の樂店又は小間物店へ資源候へ取次賣捌望の方ハ御申込あれ

電話本局百三十八番

人星野與兵衛

特約　養毒元

足袋・靴下・足袋・各種

足袋　靴下　鈴木卯兵衛

◎職工條例の必要

元來我邦の美風として傳主と職工との關係恰も主從一家の情誼を存し夫の歐米各國の資本主は僅人を强制虐遇し勞力者亦反抗して資本主を困しましひるが如き事例なしと雖も近來諸工業の進歩發達すると共に勞力者就中各種熟技を要する職工の需用其數を加へ紡績業に使用する職工のみにても殆んど二萬以上に達し其他諸工業に從事する職工を合すれば恐らく數十萬多の上に上るなる可しと而して從來其取扱向き及び兩者の守るべき一の規定なる事實其必要を見ざりしに依ると共に夫の家畜にすら使用の條例あり然るに生産者の要部を占むる職工にして之なきは亦一大缺點と言はざる可からずとの趣意に當局者に於て國體の如何と傍ら歐米各國の與例を參酌し一の職工及び工場に關する成案を調製し既に帝國議會の協賛を求むるまでに進捗居りしも新條例の事とて慎重に慎重を加へ尚幾多の考訂を加へんが爲め今期の議會に提出するを見合せ居る大抵之は夫の鑛山紡績對中央同盟紡績同盟の爲勝問題に實に職工取扱ひに源因したるものにて向後斯る問題は其大小の差こそあれ各種の工場間に順は上るべしと斷定すべからず否之日と雖も活版、燐寸、織物其他の諸工場に於て現に目擊し得る所にして世運の進歩につれ此等の關係も漸次歐米風の惡弊に流れ易きの智易きの進度なれば此際當局者の施設のみに安んぜず當業者たる者奮つて國家百年の爲め雲常なる處置を施さずんば後來必らず自家の損失を招くの場合を來すべし徒に職工のみを强壓して事業家の前、盡せりと爲す如きの德義、恢疎き結局自他の不利なりと雖も有力なる業工業家は熟心に語れり

◉小兒の洋行（承前）

今村翁　次郎　述記

扨て羞恥ハ矢の如く過る月日に關守なく、小兒ハ早や六歲に相成り、每日學校へ通つて居りますが、勿論利口な生れの上に他人の三人前ずつも勉强を致しますから、理由が分るとい云つても何條差だ頑是ない小兒の事や、有、一日學校からノメ〳〵泣きながら歸つて參りました　芋　どうしたの……こゝ、どうしたのの、小、阿母さん私ハい彼の學校へ行くのハ嫌だ　芋　ナぜお前ハそんな事を云ふの　小、だって學校へ往くと、文ちやんハ阿父さんがないのだ、舘なし子だ舘なし子と皆なが云ふから、もう彼處の學校へ往くハ否だ、後生だから他所の學校へ遣てお呉れ　芋　何ア否だ、そんな事ハない、誰がそんな事を云ふのだ　小、彼の子が……（指差をする）　芋　ちよいと〳〵お前さんナぜ其樣な事をお云ひだへ、阿父さんのない子があります、此子の阿父さんハ英國へ洋行をして居るのですよ　芋　だって前ハ處の阿父さんハないから阿父さんハないと云つたのだよ、私ハ餅ばやアアないから阿父さんハ居るんだよ、英國と云ふ所へ洋行をして居るんだから、其樣な事を云ちやアいけませんよ　芋　ウン失れぢやア皆なに謂ふ云つて遣ちう　芋　アいさう云つてお呉れ、皆酷ちやア往けないよ　芋　私ハ處の阿父さんハ此間洋行をしたよ　芋　ヲヤさうお前の阿父さんハ何國へ洋行をしだへ　芋　アノ神戸へ洋行したの　芋　神戸ハ洋行をしたの　芋　ウン、其正に皆なが羨めちやア往けないよお裏手を買つて遣るから、仲よくお遊びよいハかへ、皆なに云ふ云つてお呉れ、文ちやんの阿父さんハ英國へ洋行して居るんだッて……と頼みましたから誰も吸嗟を仕掛る者もなく、小兒ハ一生懸命に勉强をして居りましたが小、阿母さん英國と云ふ處ハどうして往くんだへ　芋　夫ハね、妾も能くハ知らないが、新橋から汽車で横濱へ往つて、夫から汽船に乘て往くのだと云ふ事さ　小、ウン阿母さん後生だから私ハ汽車で往きたい事を英國へ遣つてお呉れな　芋　そんな詰らない事を云ふんだへ　小、だって彼の皆なが阿父さんハ、ウンと云つてるから、私ハ英國へ往て阿父さんに逢て來たいもの、阿父さんの處へ往きたい事を云ふんだへ、阿母さんハ、ウンと云つてお呉れな　芋　ナぜ、文ちやんの阿父さんハ英國へ遣つてお呉れな　芋　ナぜ文ちやんの阿父さんハ英國へ遣つてお呉れないのだ、文ちやんハ阿父さんがないのだ、舘なし子だ舘なし子と皆なが云ふから、もう彼處の學校へ往くハ否だ、後生だから他所の學校へ遣てお呉れ　芋　何ア否だ、そんな事ハない、誰がそんな事を云ふのだ　小、彼の子が……お前さんナぜ其樣な事を云ひだへ、阿父さんのない子があります、此子の阿父さんハ英國へ洋行をして居るのですよ　芋　だって前ハ處の阿父さんハないから阿父さんハないと云つたのだよ、私ハ餅ばやアアないから阿父さんハ居るんだよ、英國と云ふ所へ洋行をして居るんだから、其樣な事を云ちやアいけませんよ　芋　ウン失れぢやア皆なに謂ふ云つて遣ちう　芋　アいさう云つてお呉れ、皆酷ちやア往けないよ　芋　私ハ處の阿父さんハ此間洋行をしたよ　芋　ヲヤさうお前の阿父さんハ何國へ洋行をしだへ　芋　アノ神戸へ洋行したの　芋　神戸ハ洋行をしたの

世界無類優香水おしろい

定價
小瓶……四錢
中瓶……七錢
大瓶……拾貳錢
此外共口瓶入大中小各種

登録商標

◎高尚優美なる芳香の水れしろい也
◎鉛毒なし常に用ひて御安心
◎雀斑の白皿の如く光澤あり粉の浮くことなし
◎御かぶれ御ゑ而用ひ肌のあれを治し日にやけることなし
◎全國一般小間物店にあり請賣御望の方は發賣元へ御相談を請ム

發賣元　東京市日本橋區横山町壹丁目　小間物問屋　近江屋源七

ライオン齒磨の特効

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はるゝ普通齒磨と其質を異にして香氣馥郁として口中の汚物と臭氣を去り齒質を雪白健全なる世界無比にして且賤品を常らしむると雖も使用するときは齒れ齒齲齒を治し總て口中一切の病を患むる無きと疑なし是れ本品の特効なり江湖の諸彦願々浄試用の上冷高評あらんことを乞

東京市神田區柳原川岸廿二號地
電話浪花四九八番

東京特約店　横濱市常盤町二丁目　小林富次郎

横濱特約販賣　天野支店　中村商店

日本橋區通油町　村田藤七
日本橋區堺町二　安藤井筒堂
日本橋區堺町二丁目　平谷貴會社
銀座二丁目　佐々木玄兵衛

大勉强廣告

弊店今度もとより元毛製造場と特約致し諸いもと乳一大改良と加へ大勉仕候間何卒多少に不限御注文被下度此段本紙上謹告仕候

發賣元　東京日本橋區馬喰町二丁目　平尾賛平

日本橋區通油町　村田藤七

當世流行　丸三形

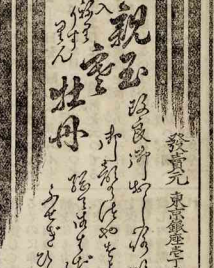
右丸三形曲人之義今優美ノ流行形ニ一致シ其原料ハ上等ノ意心ヲ製ノ日是迄類ナキ組上ノ製造ニ致シ物故何卒多少ニ不限御注文被仰付候

東京　小間物問屋　村田藤七

●本品の特色●

普通品に比し價格低廉にして量多く光澤艶も氷くはげず而かも艶麗にして太つけるもひなしにわるうれひなし

製造元　遊廓陽名町　森川積善堂
東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋
本舗　善　丸見屋善兵衛
電話浪花四四八番



發賣元　東京銀座壹丁目つかさ　佐々木玄兵衛

定價
一貫　二錢
特製　五錢

❼生絲商の現則改正

日下當局者に於て營業稅法の適用に關し見解を異にするの結果、生絲商の間に於て現行法令の明かなる生絲荷主との間に於て現行法令の明かなる生絲商に對する爲め現定したる申合規則は、今回實施の稅法上、金錢貸付業と見做さるゝ類の如きは、疑問の點多きに付、其筋に問合せ、及び各地方の荷主に通知し、即日より實行したる由、

❽明治度識德の義捐

昨年以降度の旱魃は非常に米穀に大害を及ぼして國内の儲を生じ其後二三の降雨あり、九月に至り、其効効驗大なるに非ず、然るに其後一月間も雨なく、其効効驗大なるに非ず、然るに其後一月間も雨なく、其効効驗大なるに非ず、然るに其後一月間も雨なく

反古志ゝべ

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十二年十月晦日）

在々にゐゐて神事祭礼の節或い作物虫送風祭抔と名付て芝居見世物同様の事を慣し候者有之由相聞不埒之事に候右様之儀企渡世いたし候者ハ勿論其外に已原俗わしき旅商人或は河原者など決て無き者共を立入せ申間敷義遊興惰弱よからぬ事を見習自然と稼作にも怠候よりして荒地多く困窮に至る終に其根は散亡の基に成事に候間右之次第を熟考に心懲候依而自今以後遊惰歌舞夜淨瑠璃抔而已芝居同様之人集め堅く御禁たるべく候今度右之通相聞候者は無用猶懲戒容可之者也

右之通寛政十一未年相觸候處近年猥に相成候趣相聞不埒の事に候以來觸面之趣急度相守人集め間敷儀一切不致惰弱之風儀相改稼作を專に心懲可申候若相背候者於有之は吟味之上急度咎可申付者也

右之趣御料は御代官幷其所私領は御主地頭に寺社領とも不洩様相觸御吟味小給所之分は最寄御代官より也常々心付候様可致候

右之通御書付出候間町中不漏様入念可觸候

十月晦日　町年寄役所

（同年十一月廿日）

昌平坂學問所御富門内日請之儀朝六ツ時より九ツ時迄前々の通有之候間寛政十二年相達候通聽聞之志有之歟は貴賤に不限罷越候様可致候

右之趣向々へ寄々可被達候

十一月　町年寄與書前に同じ）

（同年同月同日）

近來醫師の供方風儀一体に惡敷相成病家へ罷越候度毎酒料或い辨當代と唱へ金銀とも受取相聞候病人により候てハ時刻を無差別相招療治受候事も有之ゝに付病家の心得を以供方のもの共へ申聞へ手當いたしいたし受納いたし候別にいい得ども供方の者共よりねだりケ間敷儀申出いい有之間敷筋にて小身又は身上不如意のものハ療治受いい儀謹成右は兼て家々の申付方不行屆故にいい以來右休之儀無之樣嚴敷可申付置いい

十一月

（未完）

◎唐紙行旅眼石（つゝき）　十返舍一九

その日は舟ばしのゑびやといへるに宿借て、やすらいたるに、あるじ出て八兵衛なん、めさるべくやといひたるを、いとあやしみて、いかにと云ふに、子が僕太吉なるものゝいへるハ、この驛のめうちにふんなを、八兵衛と申侍るは、古きことのやうに聞はべれど、其ものゝ、しりはべらずと打わらひぬ、かの遊女のまゝ、かみかたちことやうにて、廣袖のあかつきたるを身にまとひ、あしに紺の足袋をはきたるは、いとにげなくて、さながら、ふのとのいかめしき、すがたなりければ上總にハ七兵衛清あるやらん、あるあり佐倉の御城下にいたりて春の猥るくらの町の七重八重、こゝに一雅亭のあるじを、とひはべりしに、拙しも、むとゞの實をいはひたまへるよしなれば、さいわひにとゝはべる

六十のむしろやぶりの朝比奈の
りんにあやかれ鶴の千歳

八日市場の九輪屋何がしの亭に、やゝ待りしとき、野中の清水子、酒の德利をたづさへて、訪ひ來りたまへるに、むくひはべらんとて

一生もわすれじわれら風情ぞ
歌の德利のめぐみあなれば

此おわたりちかき、米送にいへるにいたりける日、雪いとうふりつみければ

豐としの
近江さむる嚴とん
米送むらの雪の白かべ

入野村に、磯の干潟子を訪ひはべりて、こゝにまた、わらんづのひもとき はべり、予が戲作の草ぎ

第四回内國勸業博覽會
有功賞牌受領

最良香油　八千代

精撰香油　あさい油

東京市日本橋區田所町十番地
井筒屋香油店

洗粉發賣

朝日ちふひ粉
本舗　九華堂
壹袋　壹錢
鑑入五錢

定價
弊堂製造ノ洗粉ハ今般販路擴張ノ爲メニ付各位御試用ノ上陸續御注文ノ程伏テ奉願候
東京牛込區細工町
本舗　九華堂　小林幹治　敬白

弊店製香油幷
煉油之廣く世
上の好評を得
品質の精良香
氣の可愛販賣
の彩しき既に
諸君の御信認
を辱する所也
益々勉强御愛
顧の厚きに酬
ひ奉んとす伏
而御用の程奉
賀候

サンライス本店
サンライス歯磨
定價　大鑑入金拾錢　瓶入金六錢　小鑑入金四錢　袋入金貳錢　壹封度八金卅錢
効能卓絶價格低廉世界第一
近來諸方に用ひ之に類似の商標を附し眼を惑はす往々有之候間本店と同じ商品を取扱ひ賣買する者は大阪市上寺町三丁目久宜寺町京都寺町
◎製造本舗　京都上京区
◎代理店　大阪市
◎特約店　東京市
◎代理店　名古屋市
泥雲の相違商標長
◎自然特約店無之地方は左記代理店及特約店へ御申込被下度本舗同様割引の御相談可仕候
◎全國到る處有之候名の小間物商及び商藥店にて取扱ひ可申候
◎阿製の名義及び商標の相違は御認の上講求
長岡清助
小栗小三郎
宮田辰治郎
中村善右衛門

うしを呈するとて
はづかしやわがいとなみの草ぞうし
作大將の君にまみへて

其後あるじ心の友とち、よりつどひたまひて、たはれうたの、すまひてんことを、きそひよみ出たまへる、うたの數々を、はづかしがる、しば〳〵あなれど、曲ノ所ノ香に出はべれば、こゝにのせず

干國子、鮮鶴日和子、田舞月見子、れの〳〵子に靈讃を乞はれければ（記者曰く此處に櫻花の下に武者の坐する圖あり）

御仁体に似合す花をあるしとゝ
門田のいなゝ丸子、みづからかきたまへる、大黒の掛の書に
遠慮せず高慢がほに人さへ出る抗をうつ大くゝの桃

（記者曰く此處に雷の鐘をれとし雲間よりかぎをもて引揚る圖あり）

かみなりも〈そくり錢やたまりけん

こしをはなさぬいなづまのかぎ

八日市場天神山のいせやといへる酒店にて祠風や伊勢屋とさけばあきあひもかくべつ利生ありてにぎはし

（以下闕出）

作者不詳

◉司馬温公家訓　婦人六德和解

▲柔順

柔順どゝい物やはらかにして慈悲ふかく父母にしたがひつかふまつりて能くそのちからをつくすをいふなり

然るに女子は夫の家に嫁すれば父母につかやる事叶はずされど親の家にあるうちも殊に父母に孝行をつくすべし、夫の家に嫁しても舅姑につかふまつりて苦勞をゐとへもみず、夫にしたがひ志をつくし、老てハ子にしたがふべしこれ、父母に言られしをの厚恩を報ゆるのいはれなり、勿論親るい縁者ともひつまとしく、下部を憐み、幼き者ハ他人の子といへども我子のごとく愛し、人にさからはせず〳〵しからず心温和なるべし

恵の崔懿の妻唐夫人は姑につかへて孝行なり、姑年老て齒ことし〳〵ぬけたれば食事用ひらるゝことなくなりがたかりしに、唐夫人毎朝ごとに行きて我養育の子はおろそかにして其乳をひたすら姑にすすはせまいらせられしなり、かるがゆゑに姑數年の間飯粒を食しだにまはざれども、一だんとをくさいなりしとなり、されば姑天年を終らんとする時未期に人々集れるに對していひたまへるハ、我年久しく嫁唐夫人の厚恩をうけつゝに報ずる事なし、願はくハ唐夫人子あり我につかへられし如く孝行にせば、我家ながく繁昌すべしと乞ずされけるとかや

▲清潔

清潔といけがらはしき事を心に受ぬれず邪なる事をなにもはず真節をかたく執守るをいふなり

然れど女ハとりわけ男女のわかち行儀正しくうたがひをさけ人に恥しめをうけず身の取なはしをいに心すなはちに少しもうしろめたき事をせぬものなり、漢の鮑宣の妻桓氏ハ極て貞潔なる人なり曾て鮑宣貧き身にて操潔よく勤學怠りなければ其師其志を篤き事を感じ、一人の女を彼の鮑宣に妻せ、既に嫁するのとき其やうす女の粧ひ富た体にて、衣類調度美をつくして從者なども夥多しく目を驚かすばかりなり、鮑宣これを見て更に悅ばずして婦にいひけるハ、我もとより貧賤なる身なればかゝる華美なる婦を迎ゆべきにあらず、又異方へ嫁したまへといひければ、桓氏こたへて云ひけるハ元來我父鮑君貧しき身にて德をかさめたまへるを感じて、我を君につかふまつらしめたまふなり、さればとにもかくに君の心せにたがふ事あるべからずと、美服を改めて短布の衣裳を着、多くの調度その飾かつきしゝの侍女も皆ゝ皆々親里へ遣し、鮑宣と共にして小車をひき姑に孝行をつくし釣瓶を提て手づから水を汲み飯を炊き、婦の道を盡せり、隣里これを稱ざるハいなしと聞及べり

〔未完〕

廣告

高尚優美術漣彫刻　高尚美蒔絵彫刻

本甲臺蒔繪彫刻揃物櫛笄
惣張臺黑唐代生地繪金地
高評漣彫揃物櫛笄簪中差
推朱彫揃物櫛笄簪兩天一貫
新形朱推朱政子政子鬢
各種共柳鬢糸政子形釵形
上等玉入簪向差長房付簪

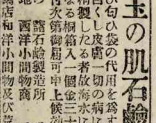
善吉

東京市日本橋區橋町四丁目
小間物問屋　丸見屋善兵衛
◉電話張花四百四十八番

社丹香の功能は能書に委敷しるす

東京・本橋區油屋町五番地
化粧品石鹸製造
山田屋三藤製
井上作次郎

全世界無比



たまのはたた

冠纓商標　匂袋兼用玉の肌石鹸

土州高知播磨屋町

玉の肌は麝香薫郁四方を拂ひ匂ひ袋の代用を爲す日常ハ衛生陸の高等石鹸なれども玉の肌はあらゆる病に宜し皮膚切の病に宜し皮膚の病に宜し皮膚の病は純良の藥品を撰び精製

餘興

傳書鳩

汝(なんぢ)は又まめで命を拾ふらんたゝかひの無き世の傳書鳩　繪馬屋
鳥でさへ皇國の恩を荷ひつゝいくさぶみをば送りくる鳩　月丸
電信のかゝる便利のその上を　おは飛こえてやく傳書鳩　緑山人
禮をしる皇國の鳩も軍用になしてゝ歴に譽らさりけり　彌生庵
皇軍ゝ仁あり義あり禮のあるゝ鳩に密書の使ひさせけり　月好
まめやかに文を傳ふるいへ鳩へ鐵炮の音も恐れざりけり　鏡花老人
鐵炮の丸いつゝなるこの豆はとに飛散るなかをゆく傳書鳩　望平
戰捷を大本營にまらせ來るはとゝへ流石に禮をみださず　飽麿
君命をはづかしめずと陣中へ文の使者にもたてるいへ鳩　水月
戰場にふみを傳ふるいへ鳩ゝ軍さの神の使者にとをれ　秋の屋

●俳句

此はうた文句結び俳句はさる人々の催しに係れりとて友人なにがしより付て記者に贈り越せし處なるの由頃徒然の餘りとり出して之を見るに其面白きこと限り無ければ是り餘興のよき種なりと思ひつゝ技に渉げて同好諸君のお慰みに供せる事ゝは申なしぬ

▲はうた文句結び泰盛題句集

ぬば玉の間しら梅のかほりけり　竹堂
出代や眼に持つなみだ隠す袖　半醉
身ゝひとつの氣は二すじや出代女　左
藪入や姿つくらう水かゞみ　無限
青柳やふゝもわせ少なり月の顔　笛浦
戀と意氣地の世を逃て蛙の戸　やなぎ
おぼろ夜や二人の胸の綾瀬川　珍風
編足してさた旅やらず纏の蟬　雪遊
つみ草や今帶メてゆくわいな　吟風
下戸ひとり酒を肩に花の山　笑樂
綾りやり羽織かくして罪つくり　如風
黒助稲荷につきゝれな花の人　松葉
美經勝慶淺邊や風軍　吟風
わかれ鐘に羽織のくして柳の戸　珍風
一日雨に扨はゝなさよりる櫻　酒好
老木さて若やぎていはるの雨　三橋
長閑さや八瀬や小原の黒木賣　東屋
れぼろ夜や抽ひき留て耳に口　笛我
下戸一人野春ゝ花の下びしろ　歯蛙
雉汁を高西太郎や梅の花　俊賀
はつ空や昔も世話しき車井戸　柳
雉子滝に深山の興の詫住居　雨曉
仇な笑顔の住居らし柳の戸　友我
影うれしもしやと思ふ人來鳥　三重女
遠音引鄙谷川やきしの聲　錦玉
この顔かくす妹にくしかれ月　也哉
はる雨やゝはせ少らなく恐れ胸　半醉
夜櫻や兎の起す空寐入　素美
夜櫻や人のそしりも世の義理も　素雲
おぼろ夜や二階せかれて格子先　笛我
花に風あゝまゝならぬ浮世哉　三橋
初午や鄙子を延て子のきげん　光山
萬歳や障子はゝとめに嫁の顔　村雨
まゝならぬ浮世を逃つ梅の主　素雲
寢過しゝ枕の聲よはるの雨　樣見
はる雨やゝはせ振な空寐入　秋の家
娘氣のうききぬ〳〵や仕錦雛　村雨

〔以下次號〕

▲一口はなし

▲縣盡し　大垣竹嶋

◎西洋人の名刺い名が先……（長崎）
◎此花は一重のねへ「イ、エ」三重
◎堺ちゃん手を何なすつたの赤い物が付て居るぢやアありませんか「アイ血」……（愛知）
◎なまけ者が欠伸をして曰く、毎日とんな仕事をして飽きた……（秋田）
◎ナイ君あの子供の廻して居る輪を見たよ（官）に大きな輪……（沖繩）

▲第四十六號智恵くらべの解

㊀四九九八九（句樂）　㊁ゑび母だ（乳、麝、皿）
㊂ふかい情け（鮫、鯨、鮭）
（皆當）武州熊谷町近藤店員◎通鹽町勉强親玉店員
（一）鳥取市龜澤商店居候小僧
（二）（三）羽後國横手町七笑
（一）本所絲町三丁目林長之助◎神田某店員

弊店義年來名古屋扇製造販賣罷在各地御得意樣御愛顧ヲ以而益業務盛大ニ相進候段難有仕合社員一同奉謝候扨一昨明治廿七八年戰爭凱旋以來御祝品トシテ需用一時ニ相增シ各地御店樣ヨリノ御注文相當ミ夫故昨年中ハ品拂底ニテ折角ノ御注文モ應シ兼候場合尠ナカラス遺憾限リナク奉存候依而本年ハ昨年中ヨリ熟練ノ職工相增新意匠ヲ盡シ時好ニ相適シ候雅品澤山製造有之何程多數ノ御注文ト雖迅速御間ニ合セ可申上候間何卒澤山御用向被仰付被下度偏ニ奉願上候也

東京日本橋區堀江町弐丁目
平谷合資會社

燒　八錢。拾錢。廿錢。特別製　卅五錢
水　八錢。十五錢。同　卅五錢

○此うら梅おしろゝは眞正無鉛毒製にしてつきよくのりよくはけをする事をー又硫黄温泉臭氣ある所に入るも決して變色する事なー

嗜用人　新駒屋　中村福助
發賣元　赤心堂
發賣代理店　東京横山町二丁目　田中花王堂

日本橋小網町二丁目鐘橋通

武州八王子　森田林七
武州青梅　岸田屋時次郎
武州川越南町山田屋周次郎
武州熊ヶ谷　國田屋商店
上州前橋立川丸屋清吉
上州伊勢崎町屋野清次郎
上州高崎田町　木暮彌平
上州安中　伊勢秋坂新町井田正平
上州藤岡　櫛屋文次郎
上州足利二丁目　船澤屋菊五郎
野州栃木通秋町　堀部武兵衛
野州足利二丁目　櫛屋春吉
同宇都宮日野町針屋喜平
相州小田原　堀部彦太郎
相州小田原　村上庄藏
名古屋末廣町　井上平大郎
伊勢津市町　大西屋定助
四日市市町
静岡市上魚町　岡部武兵衛
遠州濱松田町　棒屋藤吉
三河國豊橋　谷屋六藏
大阪南區戎橋北詰　山中商店

特約　京橋區銀坐三丁目　松澤八右衛門
大販　日本橋區瀬戸物町　玉置金八
賣店　大坂南區戎橋北詰

賣捌所ハ何れにも有之候間最寄賣藥店又ハ小間物店にて御求を乞ふ

麝香の効能咄し

「ナヤ神ちゃん大変な事ひやすねへ、何ひ袋を御持ですか」イヤ何ひ袋は持ては居ませんが、横濱香を原で陽ひ乃ち升ちゃ大ガラれ出ちゃ、ひ袋を御持ですか」「

東京、丸見屋善兵衛　二六二〇〇〇

豐岡、石田嘉作　一〇二〇〇〇

東京、村田藤七　八三二〇〇〇
東京、佐々木玄兵衛　二四五〇〇〇
大坂賣藥御賣株式會社　二五六〇〇〇
大坂、飯田定助　二五二〇〇〇
函館、加藤文三郎　二五二〇〇〇
新潟、三條屋又吉　三三〇〇〇
札幌、南部佐七　三〇〇〇〇
長崎、柏屋善藏　八〇〇〇〇
長崎、宮長次郎　二六〇〇〇
金澤、越治郎平　二六〇〇〇
大坂、大崎組商會　四二〇〇〇
東京、石屋近藤太兵衛　二三〇〇〇
根室、藤野商店　二三〇〇〇
福井、來松本芳五郎　二三〇〇〇
三條、淺間傳左衛門　二三〇〇〇

米澤、長巳屋吉三郎　九〇〇〇〇
山形、伊勢屋茂兵衛　二四〇〇〇
函館、小藤代口清吉　二四〇〇〇
名古屋、伊藤重藏　七四〇〇〇
名古屋、伊藤東兵衛　三三〇〇〇
東京、森谷萬次郎　六六〇〇〇
宇都宮、伊藤喜次郎　二六〇〇〇
東京、田有道　二四〇〇〇
大阪、田中七助　二四〇〇〇
足利、川田培之助　二四〇〇〇
水戸、松本齊太郎　二四〇〇〇
兵庫、田中兵衛　二三〇〇〇
小樽、井嘉兵衛　七三〇〇〇
長崎、石八郎　六三〇〇〇
森陶三郎　二三〇〇〇
秋田、澤善四郎　二三〇〇〇
福井、小林善之助　二三〇〇〇

和歌山、廣田伊助　九〇〇〇〇
高崎、室橋內藏　六〇〇〇〇
松本、九山源內　四〇〇〇〇
長崎、加藤源右衛門　二四〇〇〇
横濱、辰五郎　二四〇〇〇
東京、紅屋諫藏　八〇〇〇〇
東京、上源助　四〇〇〇〇
東京、小澤本次郎　二六〇〇〇
東京、又原大次郎　二六〇〇〇
甲府、河內屋定七　二四〇〇〇
江尻、東屋與七　八〇〇〇〇
赤間關、安次郎　八〇〇〇〇
靜岡、和上虎吉　九〇〇〇〇
淵澤、吉　二六〇〇〇

沼田、田村新兵衛　九〇〇〇〇
若松、石ノ奪松　二四〇〇〇
米澤、柏屋善造　二六〇〇〇
若松、河內屋濱吉　二六〇〇〇
江戸、多津五郎　七〇〇〇〇
東京、小澤元兵衛　七〇〇〇〇
東京、小澤本次郎　二六〇〇〇
東京、田喜平　二六〇〇〇
東京、定七　二六〇〇〇
東京、大石德平　二六〇〇〇
東京、又原大次郎　二六〇〇〇
甲府、河內屋定七　二四〇〇〇
江尻、東屋與七　八〇〇〇〇
赤間關、安次郎　八〇〇〇〇
靜岡、和上虎吉　九〇〇〇〇
淵澤、吉　二六〇〇〇

長崎、立野權次　九〇〇〇〇
松山、和泉屋　九〇〇〇〇
秋田、織田虎吉　九〇〇〇〇
若松、淵澤吉　二六〇〇〇

佐賀、鍋島五郎　九〇〇〇〇
熊本、山本作治　九〇〇〇〇
廣島、一西本作治　九〇〇〇〇
諏訪、藤屋作四郎　二四〇〇〇
高岡、中野平次郎　二四〇〇〇
高岡、玉置久八　二四〇〇〇
仙台、川內幸吉　二六〇〇〇
新發田、加藤長藏　七三〇〇〇
丸亀、高砂屋孝吉　七五〇〇〇
新發田、富岡作治　七三〇〇〇
新發田、藤長藏　七三〇〇〇
新發田、高砂屋孝吉　七五〇〇〇
丸亀、富岡作治　七三〇〇〇
一之宮、富永吉次郎　二四〇〇〇
高田、石澤長太郎　二四〇〇〇
尾ノ道、永田寬三郎　二六〇〇〇
長崎、佐賀屋清五郎　二四〇〇〇
東京、中島屋宗吉　二六〇〇〇
東京、百助　七三〇〇〇
東京、中村清左衛門　七三〇〇〇
甲府、末竹清左衛門　七三〇〇〇
東京、中村小三郎　七三〇〇〇
嘉郡、中村小三郎　七三〇〇〇
江差、中村小三郎　七三〇〇〇
横須賀、山本賀平　八三〇〇〇
三春、橫元柳平　八三〇〇〇
八王子、大黑屋利兵衛　八三〇〇〇
足尾、五十嵐義市　七四〇〇〇
大田、森平次郎　七五〇〇〇
高田、森平次郎　七五〇〇〇
越後、小島長助　七五〇〇〇
福島、長兵衛　七五〇〇〇
高岡、竹村清平　八三〇〇〇
高岡、竹衛門　八三〇〇〇
福島、長助　七五〇〇〇
小島、長助　七五〇〇〇
高田、長助　七五〇〇〇
長崎、佐賀屋清五郎　二四〇〇〇
長崎、長兵衛　七五〇〇〇
長崎、長兵衛　七五〇〇〇
長崎、長兵衛　七五

（一）　（第五十號）　明治三十二年二月十五日

遞信省認可（第廿一廿二廿三廿四廿五廿六）

東京横浜毎日新聞

雜說

○僞物あり御用心（承前）　骨皮道人

勿論骨皮道人の僞物のあるは今回が初めてにもあらず●指を屈すれば七ケ年以前●即ち明治十四年四月頃にてありき●道人がまだやはまを新聞に筆を執りつゝあるの當時●骨皮道人と稱する者靜岡地方を漫遊●殊に大阪にもやはり新聞の記者なり●帶藤專門の著作者なりなど●出放体の大風呂敷を廣げ●勝手な大法螺を吹き散かし●頗りに無鳥郷の蝦蟇を氣取て居りしを●同地の識者は大いに怪しんで●態々やはまと新聞社へ宛て道人の旅行せしや否やを問合せたりしに●道人の本性名は何と云ふや且つ年齢容貌等をも承知いたし度しなど云ふ問合せ郵便が●日々數通到來せしより●偶い其だ迷惑千萬なりと早速紙上へ本社の骨皮道人い近頃旅行せしやを●依然編輯に從事し居る旨を記載し道人自ら は僞物の害を免する一編を草して紙上欄へ掲げしに●彼れ其化の皮のあらはれて沈石に其處に居たゝれず何時の間にやら何處へか逃去りし由にて●其當時の投書やうの物やら狂句やら狂歌やら●種々様々の投書が參御坐候と盛張てゐる●最て何處からか道人は紀念として贈り越しに●照魔道人と云へる人より送られし狂歌なり●即ち左に記して以て証を為す

骨皮道人ノ僞物し靜岡地方を徘徊するの歌

骨皮道人ノ僞物し靜岡地方を
骨皮道人ノ僞物し靜岡地方を
喰ひかねて己れ骨皮と日はしり
人を喰はせる乞食道人
本をものゝ骨もあれども僞ものゝ
面の皮のみ厚き道人　靜岡　照魔道人

其後明治廿五六年頃にてもありしか●確かに時日を記憶せざれど●或日フト大坂毎日新聞を閲したるに●同紙上に駁判の言波を揭げたる文中「やまと新聞記者骨皮道人と稱して各所を徘徊し云々」とありて詐欺同盟の犯罪なりしが●彼の靜岡へ行きしも多分此奴であつたやと想ひたり●而して其後又熱海に國根に●或ひは紀州最寄に又福島仙台等の地に出現し盛に悪徒地方等●何れも東京の骨皮道人と稱して徘徊せし者あり●其捜査地よりの照會狀あれ共餘りくだ〳〵しければ略す）

扨て斯の如く骨皮道人の名あるも骨皮道人あり●骨皮道人の骨皮道人が鉢合せして●何れが其正の骨皮道人だか●何隠が本家本元やらサッパリ相分らざるに至ては●實以て問口なるを得ざるなり●然れども彼等が大風呂敷の材料となすに適なる●新聞紙にも事に又小投書を爲し●旅行者作に身を委れて既に何々を何々書居り●傍ら著作に身を委れて既に何々を何々書居り由版せしなども●云へば偽此道人が是を爲て爲し遂るを得ざるの事なり●切横取りして居るものゝ如し●然らば問ふ單に骨皮道人と稱するの●法律上問題にもなるべき●此道が是を不無はなし●偽の著作に身を委れて既に何々を何々書居り●又の名を何の編もゆかりの書作だと云ふからに●是が種々の僞物●否な西森武城の骨皮道人が●正眞正銘本家本元の骨皮道人で●御坐候と盛張てゐる●最て何處からか道人は本かゐるべしと思ふなり●況んや西森武城の人付の獲ッぱちにして●唯偏かに骨や皮ばかりなるが故に自ら稱して骨皮道人と云ふ謂なれとも●他へ骨肥の大若くの普通の人間にして名實相反し●少しも骨皮の骨皮たる眞相を具備せざるに於てをや●尤も或人は僞ものに限つて何事も無責任なれば●これ云へど●僞ものに限つて何事も無責任なれば●の名を振廻し●都合の悪い時には旅籠屋其他の喰逃げをして先方の人々が是から僞物の骨皮道人だと仕方がないと諦絶て臭れば宜いが若や被害者が之を真正の骨皮道人と信じて居た日になつて見ると●眞正の骨皮道人たる西森武城は十ソト逃遁し遂に次第なりやや●故に道人も甚に踏て眞正の骨皮道人相書を認めて以しの多分此奴であつたやと想ひたり●而して其後又熱海に國根に●或ひは紀州最寄に又福島仙台等の地に出現し盛に悪徒地方等●何れも東京の骨皮道人と稱して徘徊せし者あり●其捜査地よりの照會狀あれ共餘りくだ〳〵しければ略す）

扨て斯の如く骨皮道人の名あるも骨皮道人あり●骨皮道人の骨皮道人が鉢合せして●何れが其正の骨皮道人だか●何隠が本家本元やらサッパリ相分らざるに至ては●實以て問口なるを得ざるなり●然れども彼等が大風呂敷の材料となすに適なる●新聞紙にも事に又小投書を爲し●旅行者作に身を委れて既に何々を何々書居り●傍ら著作に身を委れて既に何々を何々書居り由版せしなども●云へば偽此道人が是を爲て爲し遂るを得ざるの事なり●切横取りして居るものゝ如し●然らば問ふ單に骨皮道人と稱するの●法律上問題にもなるべき●此道が是を不無はなし●偽の著

雜報

條約公布

佛國駐劄官補ルアルバ氏ノ代理ニ於テ廿八年十一月五日名古屋ニ開ク條約ニ付通商航海條例ハ廿九年四月九日ヲ期シ施行スベキ旨ノ官報ヲ以テ公布セラレタリ全文十五條簡定ニ書ラズ全文ヲ掲ゲル餘單ノモノナルガ趣意ハ他ノ各國ト同一ニシテ格段ナル事ナシ即チ各條項ノ要節ヲ掲記セバ左ノ如シ

第一條　永久ノ和親アルベシ○第二條　外交官領事官ヲ駐在セシム均霑ヲ以テ○第三條　臣民ハ通商航海ノ利益ヲ享ベシ○第四條　相互ニ通商ヲ為スベシ○第五條　最恵國ハ各地港ニ在留居住シ且其地ニ於テ家屋倉庫ヲ借受ケ使用シ總テ正業ニ屬スル各種ノ生産物製造品及ビ商品ノ取扱ヲ享ベシ○第六條　最恵國條款ハ他ノ無償ノ特恵ヲ得有使用讓與スルトニ關シ最恵國ト同一ノ取扱ヲ享ベシ○第七條　最恵國條款ハ他ノ無償ノ特恵ヲ得有使用讓與スルトニ關シ最恵國ト同一ノ取扱ヲ享ベシ○第八條　附レテ之ヲ許與シタル時ハ均一ノ條件ヲ附シテ之ヲ許與ス○第五條　役ハ別國ノ輸入品ニ課スルモノト同一ナルベシ別國ニ對シテ禁セザル輸入品ハ亦之ヲ禁セザルベシ○第六條　内地通商税、倉入廃棄税、便益及ビ税金拂戻等ハ最恵國ノ取扱ヲ享ベシ○第七條　沿海貿易ハ各法例規則ニ從ヘシ○第九條　船舶ハ相互ニ國法ニ依テ調査船舶ヲ見認ベシ○第十條　第十條ニ在留國ノ法律及ビ裁判管轄權ニ服從ヲベシ○第十一條　裁判所ニ出訴シ内國人ト同樣ノ取扱ヲ得ベシ信仰ノ自由葬ノ權利ヲ享ベシ○第十二條　强兵役强多公債等ニ付最恵國ト同樣ノ特典ヲ享有ヲベシ○第十三條　有効期限ハ十二年ヲ○第十四條　日佛ノ條約ハ本文ニテ認め証願あるとき佛國ヲ以テ決ヤベシ○第十五條　批雜書ノ交換ヲ速ニ行ヒ遅ク早晩提出セラルヤに聞ク貿易條例改正案ハ世間ニて或ハ本月中に提出されんと云ハ居ルなれ共ハ三月一日頃ならんと云ハ居ル粉々たる何分條例改革の重要なる調査に調査を經其案を編制せらるべく其提出期に就て經濟界の影響を蒙ざるべからざるを以て其提出期の如き未だ確定し居らざるやに聞く

業態草專賣所の全國に百用餘所を設置

業態草專賣所の準備ハ目下鋭意之ヲ進メ居リ本月中ニ各地ニ出張シ其地ニ於テ家屋倉庫ヲ借受ケ使用シ總テ正業ニ屬スル各種の生産物製造品及ビ商品の取扱ヲ享ベシ○第八條　最恵國條款ハ他ノ無償ノ特恵ヲ得有使用讓與スルトニ關シ最恵國ト同一ノ取扱ヲ享ベシ○第九條　附レテ之ヲ許與シタル時ハ均一ノ條件ヲ附シテ許與シタル時ハ均一ノ條件ヲ附シテ許與シタル時ハ均一ノ條件ヲ附シテ

故平尾賛平君傳

我東京小間物商報の今日あるゝは故平尾賛平君の大恩あるの事なり其名聲の嘖々たる所以は已に藥業家として其名聲の嘖々たる所以は已に藥業家として其名聲の嘖々たる所以は已に藥業家として

▲大坂築港と帝國議會（承前）

然れども費用を從つて大なる可きと當然にして今は終に大坂一地方の負擔に堪へず國庫の補助を得ねばならぬ迄の域には達せり其設計價算へ分て國を捕へて本紙に掲げる通り、二千萬の上を要し、中四百五十萬は國庫に仰ぐ目算にして、殘て又り其筋に對して其運動に奔手し殊に第十帝會の開けてよりの是非とも此期中に補助の議決を經る事に運ばんと奔走者多き無く、之が爲に大坂より上り來る人殆んど廿名にも近かる可く、是等の人或は松方伯大隈伯其他の大臣に或は議會の有力者に、手に手を替へて極を施し、此程に至り漸く目的の達す可き見込を得、即はち當路者をして

▲其補助費を追加豫算　として議會に提出せしめんとするまでに達したる、當路者の或部分が此運動に働かされ將に此の追加案を出さんとしつゝ有るの吾人が種々の筋より聞く所なる當路者が既に幾多の豫算追加を發して特設を招かんとする今日に於て、斯る情實ある所の地方問題に國費を投ずる心を起し而も又々豫算追加の案を出さんとする其事の當不當は暫く指き目下大坂の運動委員は、方なら ぬ熱心にて議會にも之を可決せしめ爲め充分に各派の議員へも手を廻しつゝ、有るの理由は猶は他に在り此の國庫補助ハ正金をのみ以てする者に非ず

一部を正金にて下附し一部ハ大坂市中を縱横せる堀端に在る河岸地をば一坪一圓に見積りて築港の費用の充てしむるなり

此の河岸地の中には大坂の目貫たる川場の中に在る者も多く坪一圓と實際の直打の三分一にも過ぎず、而して其の下渡さるゝハ坪數は數萬坪に多きに達せる故、名義ハ國庫より四百五十萬の補助を得るに在るも實際ハ五百萬以上の補助を得るに同じく即ち

五十萬圓以上の利潤は此の補助の議決せらるゝと同時に何の勞も無く礼手して大坂人の手に入るなり

大坂市に取り、運動委員に取り是れはゞ都合よき利益ハ無く、是れだけハ全く計算の外に生ずる副産物なれば、利に敏き人情の手ぢか此奇貨を取逃す可き乎、運動委員等ハ此の副産的利益の中にて繼しや十萬廿萬を投棄るも惜むに足らねば、當路者を買取し猶は議員を買收してまでも國庫補助の議を決せしむる事にせんと昨今の奔走は驚く可き有樣なり、既に大坂の辯護士として多少の名を知られたる法學士砂川雄峻氏の如きも其の運動委員の一人なり、築港問題ハ兎も角も事あると毎に議員が物品と同視せられて買收の目的物と爲らんとす

ハ慨かはしき事どもなり云々

萬朝報の記事に關する所は即ち此の如し然れども我商報記者の聞き込たる所に依れば今回の議會に對してハ豫算案として出さず先づ官地拂ひ下の事を主とした一種の法律案として提出し豫じめ築港の事を認可すると同時に其間自から四百五十萬圓の補助金下渡の事を認諾し置き來三十四年後に於て毎年四十五萬圓ッゝ下附すべき筈にて議會の協贊を求むるの手筈なりと云へり而して議官地十餘萬坪を表面上一坪餘に賣し尤も二百萬圓即ち四百五十萬圓の補助金と合せて六百五十萬圓なりといふも官地一坪の價格を今日の時價に換算すれば、と五十萬圓なりと云へば其實際の增價外彼の四百五十萬圓の補助金を併算するときハ殆んど一千萬圓以上に渉るべくして即ち此一千萬圓以上の利潤ハ何の苦もなく大坂人の手に入る都合なりとか

●第五回內國博覽會　第五回內國勸業博覽會ハ來る三十二年に開會する筈なれども同年は佛國に萬國大博覽會を開會し我國も之に參同したれば明治三十四年若くハ三十五年に延期し其開設地ハ東京なりと云ふ

改良化粧用白粉下

弊店製雪の梅は廣く世上之好評を得品質の精良香氣卓絶なると販額の夥しき既に諸君の御信認を辱する所也益々勉强御愛顧の厚きに酬ひ奉んとす

伏而御用の程奉葉候

價定

大罐半打入一個金廿錢
中罐半打入一個金五錢
小器卅個入一個金貳錢
御賣掛五

發賣元　善　小間物問屋　丸見屋善兵衛

東京日本橋區蠣殼町四丁目
電話浅四四八番

販賣所ハ全國有名の小間物化粧品問屋及藥店に有弁

江川商廛賣品廣告

鼈甲　珊瑚　珠　蒔繪物　推朱彫各種
船來最上黑茶本ゴム櫛各種
船來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
船來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國井三英國ノ鑛賞ヲル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々和機廉價ヲ以テ販賣仕候ニ付御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地

發賣元　本舗　上總屋　江川金右衛門　同町十四番地（電話浅北三百十九番）

小間物問屋　同　支店

御新地編　東京名物　江川ゴム製造所　東京　EGAWA KINEMON　ゴムもの　れもの　ゴム合

商店販賣品目

齒染料　●茶入し●ゐるりふし●からすふし●ぬれからす●かめよし●木ふし

かね下　●金銅散箔入●松みどり貝入各種●蘇露ピン入●鶯露ピン入

白粉　●菊かさね●ふくさ香●飽たらぺ●雪のつや●東●白牡丹●菊盞其他●富士見がた●菊盞●花王●花の雪●花の雪●都●花其他品々

煉白粉　●さくら●白粉●菊の雪●雪●羽衣●雪●羽衣●梅●雪●梅●雪●友●水●品ろ●菊●水●品ろ●菊●水●品ろ●菊

○逢山霞

（第五回）

一瓢子稿

うとて身分がよかろうとて世間のひと に賤しまれ自分も心に爪弾きする梶原づれの一門に連なる事は望みのの道が立たぬ面目か第一は結城が門内の恥辱を殺しても忌はしい梶原づれの一門に連なる事は望みませぬときつぱり云へば朝光は打喜とび　朝ムゝ切は其身を殺しても梶原へ嫁がぬと云道は結城朝光が娘能く云つた其心掛けなくていならねぢや賈い那奴めが親子して此程から蒙鏑い頼み今日も如何なりと胸を撫て堪へたが其方の所存を聞く公への仇に高の知れた事其方への仇が心元ない隨分用心してたもれと先を氣遣ふ情けの言葉聞くより綾衣ハ嬉しさ身に餘り　綾今に初めぬ御情勿体なふ御坐ります是が男にでも生れたら要ない御苦勞に掛ますまいに女と生れて御苦勞のみ掛申

奥の一室に主個の朝光謂さしたる書を傍に押遣り有合ふ脇側に肱を持たせて何やら思案顔なりし　朝ハオ　其方の綾衣能い所へ　綾父上様召しまして御坐りまするか　朝ハオ　其方の綾衣能い所へ來た近よ〳〵とさし招く其顔靜かに見上れば何やら物思ひのあるらしく憂の色ハ皺みたる眉の邊に浮び居たり　綾衣は之を氣遣ひつゝハイと答へて進み寄れば朝光い聲を低ふし　朝誰も其處等に居らぬと見ゆるな　綾ハイ皺婆は先程の御用にて高山様へ御使、田鶴丸其他の女中は皆お庭へ出て居りま　朝ムヲ　夫は好い都合ぢや實い隙な其方にまで折入つて話し度い事があつて其折がないで默止て居たが間かねばならぬ其方の胸ハ嫌餘に思ひ　綾ハイ　朝光い聲を低ふし　朝誰も其處等に居らぬと見ゆるな　綾ハイ皺婆は先程の御用にて高山様へ御使、田鶴丸其他の女中は皆お庭へ出て居りま　朝ムヲ　夫は好い都合ぢや實い隙な其方にまで折入つて話し度い事があつて其折がないで默止て居たが間かねばならぬ其方の胸ハ嫌餘に思ひ　綾ハイ　朝光い聲を低ふし　朝誰も其處等に居らぬと見ゆるな　綾ハイ皺婆は先程の御用にて高山様へ御使、田鶴丸其他の女中は皆お庭へ出て居りま　朝ムヲ　夫は好い都合ぢや實い隙な其方にまで折入つて話し度い事があつて其折がないで默止て居たが間かねばならぬ其方の胸ハ嫌餘に

小名彼かは是かと指を折つて心當りを付ては思ひあるが此咽喉の中に渦ひて相談といふは外でもない梶原の怪事奈何殿より是非とも其方をと强ての懇望其方は何と思やる其方は聞れてハッと打驚ろの名を聞くさへも胸惡き景季ぢの妻となり名聞利益に騙らるゝい武門の恥辱の汚れ聲ふる方もなきものを何として父上が妾に計らせ給ふらん合點往かずと兎つ角の苦へに窮してさし俯向く氣色を察して父の朝光　朝イヤ決して勿論はせぬ痩ても枯ても結城七郎大軍左娘を梶原如き賤ぢれ者の妻として能いものか其方の心も察し居るから是りや聞ふまでの事ぢや、が併し那奴は其方迷を知つての通り世に憚からぬ横道者此方から愛想もなふ辭令を何とか仇をせうも知れぬ其處の憂情は何と云はれて綾衣いわろびれず　綾父上様其氣遣ならば御無用になされて下さりませ妾は結城家に生れて少しも武門の道を辨へず女子の道も心得居りますれば設令權勢があら

身の甲斐なき妾の仇ならば能う覺悟して居ます若し父上の仇とならつて夫と結城一族の難儀之を防がんにハオ　ソレ〳〵丁度今月の十四日は何波のお屋様大政所御代拜として鶴ヶ岡へ御祖參詣の御祈願御坐りますれば他ながら參詣を致し前垂を掴るが何寄と存じます此儀如何と伺へば朝光も小膝打ち　朝能い所へ氣が付た抑も鶴ヶ岡八幡宮は故佐殿の御祈願所弓矢の道を守らせ給ふに一念感應の御靈場是非とも參詣致すがよい腰元共へも心得させよと、千萬の敵に恐れぬ朝光が、一人の娘に脆ろゝるも親子の情と知られたり

今日は睦月十四日頼家公の御母君政子の方の御代拜として阿波の局八幡宮への御參詣　行列の眞先に緋の油檀の對の箱臺乘立乘雨ゝ降らす風も驚かぬ太平の世は袋に納まる御打物薙物の左右に御拜の腰元多勢引揃て鎧て武藏へ着到なる程なく御拜も濟ければ局の欄干に身を持せて暫らく此處に休息あり折柄段かつらの彼方より武家風の若き女子老女一人引連たるが玉垣の傍に咲き匂ふ梅も霞ちふ花の顔を被衣に包て足早に表の方へ行かんとするは綾衣と鶴砂なり夫と見るより物蔭より立顯はれし二三の武士眞先なるは梶原源太之に續いて遠見三平太左右よりは綾衣を押包み　曷は是ぢゝ綾衣との遇日の能くも此の馬季に恥辱を與へて下されたな最前此外で見掛た故今日は是非とも能い返事聞いて恥辱の仇を致さうと此處に隱れて待受た否とあらば恥辱の前刀の試に斬取もやすく塞がる　三平様だゝ〳〵此三平太様を能う恥辱にする何と〳〵と詰寄つたり綾衣始の敷妙は惡い所で行合ひしと挨拶もせず去らんとするを左様はさせじと付まつはり果は口答たなく黙りて引留行かんとする所へ思ひも掛ぬ一人の美男子物影よりさつと抜出て進み寄り　景季は是ぢゝ綾衣の手を取りし景季が手を逆に捻上げ逃んとする三平太の襟頭取つて引戻し「何處の方々か存せねど女子を捕へて無体に振舞武士に似合ぬなされ方何したものぞ御坐ります右と左へ突退たり

▲金貨本位施行方法意見

金貨本位の實施說は此頃の諸新聞紙に在るが如し而して貨幣に於ハ最も重大の問題なるを以て世人ハ速かに其相を知らんと欲するなくんば此に貨幣調査會に於て熟心に金本位說を主張せし灰谷主計官の提出意見を掲げて以て參考に供せん其意見は初に近時金銀價格變動の原因結果並に其影響を以て職として我邦現行貨幣制度の然らざるを論じ曰く我邦皆幣制度ハ明治年始て金貨本位となり別に各開港場限り通用の爲め一圓銀貨幾百万の制を採るも十一年布告第十一號を以て一圓銀貨を內地一般の通用に供し爾來法律上實際銀本位なれり而して其明治九年金銀貨交換の割合を金一、銀十六强と定るを漸く金の騰貴を來し次で十八年銀貨を以て政府紙幣と交換するに至れるより遂に取引上專ら銀貨を流通し從て銀貨下落の影響を蒙ること大なるに及び如然ら是れ邦の將來採用すべき幣制如何と云へに現今世間國に行はるゝ幣制の一致を保ち貿易を興し殖産を增進せんに金貨本位制を採用するに如くなし且つ貿易上の便益を增進せんに金貨本位制を採用するに如くなし且つ其來歷を顧ぬれば古大國の例に倣ひ者金本位にして其他の銀貨國に漸やく金本位を採用するの傾向あり且つ我邦貿易の關係ハ金貨國との取引七割にして銀貨國との取引二割に過ぎず故に一國として將來採るべき幣政及經濟上の方針ハ金貨本位に在りと雖るべき事政及經濟上の方針ハ金貨本位に在りと雖も最後に金貨本位施行方法を論斷して曰く

第一　九百位の金貨量目二分二厘二毛二二を以て我貨幣の本位と定め之を國の稱呼に比し其價位現行の貨幣に比し我邦經濟の程度に比し其價位の必要を認む而して一圓銀貨の交換計算上に過ぐる而の減ずるを以て此際之を減少する現行の金圓を半額に改ひ為ハ頗る便利なるのみならず英佛との貨幣交換上亦便宜多し

第二　新金貨の鑄造は二十圓貨其量目四分四厘四毛四二二の割合を以て將來の四分の一種に止めたるハ新金貨を使用せしひる目的にして亦現行十圓金貨ハ發行以來重量適度にして取引上最も便宜なる所なれば

第三　從來の金貨ハ將來鑄造を停止し其既に發行せる者ハ漸次引揚改鑄に付す可し

第四　從來の金貨一圓ハ新金貨一圓に付二圓の割合を以て通用すべし

第五　一圓銀貨は將來人民の請求に對して鑄造を停止すべし

第三第四第五三項ハ幣制改革實施上に要する自然の必要處分なり政府に於て必要と認むる時ハ數類を限り一圓銀貨を鑄造するを得べし

第六　銀貨國との取引上政府に銀貨鑄造の權力を存する必要あり

第七　將來發行の一圓銀貨ハ新金貨一圓に付一圓の割合を以て法貨として無制限に授受する銀貨通じ一時に引去ハ急激に失し且つ銀貨多少流通の政府紙幣殆換銀行券及銀行紙幣ハ將來金貨若くハ銀貨を以て交換するの制に改むる各種紙幣を金銀貨を以て交換すと定むるも內地に專ら銀貨を以て交換し外國にも差支なき限成るべく銀を以てし勉めて金を失はざらしむる日本銀行をして金を吸收せしひるの政策

第八　日本銀行をして金を吸收せしひるの政策を施行すべし

第九　日本銀行をして金を吸收せしひるの政策を施行すべし

第十　日本銀行貯蓄の未鑄造銀は金と交換せしひるの政策を施行せべし

却方法は最も敏活なるべし

未鑄造銀は賣却して金に交換するを要と其賣價圓以上の金貯藏あるを要す

第十一　幣制改革實行前迄に少なくも新金貨一億二千九百万圓銀貨の經歷に依る

明治九年銀貨交換實施の經歷に依る

第十二　現行貨幣條例兌換銀行券條例及明治十年十四號布告自然の結果の改正を要す

是幣制改革自然の結果なり

云々若し今回の風說にして果して實行されんに其方法果して氏の說の如くなるべきや否を知ら云々

○補助貨欠乏と其原因

東京に於ても往々補助貨の缺乏を告ぐとあり之は也も昨年末より一月上旬迄にかけて補助銀貨若くハ白銅貨を買はんとするに百圓に對する一圓五六十錢の打歩を出すを以て之を得るに容易ならざるほどなりしと以て政府も此意を敬はんが爲め昨年末之を發行するの目的を以て造幣局に命じ一種に限り其模樣に征清事件に關して之を市場に出しつゝあれば月中旬以來府下に於て稍や其缺乏を補ふを得て交換打歩も

弊店義年來名古屋製造販賣罷在各地御得意樣御愛顧ヲ以而益業務盛大ニ相進候段難有仕合社員一同奉謝候扨一昨明治廿七八年戰爭凱旋以來御祝品トシテ需用一時ニ相增シ各地御店樣ヨリノ御注文相雷ミ夫故昨年中ハ品拂底ニテ折角ノ御注文モ應シ兼候塲合尠ナカラス遺憾限リナク奉存候依而本年ハ昨年中ヨリ熟煉ノ職工相增新意匠ヲ盡シ時好ニ相適シ候雜品澤山製造有之候程多數ノ御注文ト雖迅速御間ニ合セ可申上候間何卒澤山御用向被仰付被下度偏ニ奉願上候也

東京日本橋區堀江町壱丁目

平谷合資會社

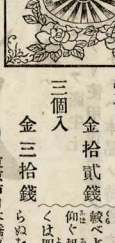
白粉の色を白くし黑髮付の毛を黑くするハ是れ只だ上邊の粧ひに止まる而已、這回數多の石鹼中（青出したる大日本石鹼は此等の類ひに非ず）して、皮膚を磨けば磨くに隨ひ天質の色を白くし、髮を洗へば洗ふに隨ひ絲の髮の光を增し粘りを拂ひ垢を取り、きめ濃やかに艶を生じて和らぐれば、手足のあれう事もなく、脾しややけの憂ひもなし、夫のみならず勞ばしき頭部を香りを保て、自然と不淨の邪氣を拂ひ、惡き臭ひを除き去りすべて清淨をむねとし、衛生上の有功と、化粧用の便益と併せて世界無比の一品、如何なる數多の石鹼も、是に比べ較べと勝ることは出ず、化粧品の總大將ぞと仰ぐ迄もなく匂ひ、實に敷島の大日本、名ハ以ては四方の諸君御試用あつて廣告の嘘ならぬを知り給はゝ事を

定價壹個壹錢二拾錢

大日本石鹼製造主

東京市日本橋區堀江町二丁目

平谷合資會社



大日本石鹼製造元

定價

壹個入　金拾貳錢

三個入　金三拾錢

東京市日本橋區堀江町二丁目

平谷合資會社　敬白

低落し昨今仲間取引は百圓に付廿錢内外にして普通取引は四五十錢となれり然れども各地方ハ今尚拂低にして因難なる感を東京に報と多少の同感を爲す所謂燒石に水の勢ありて未だ其鉄之を補ふ能ざる由今其實況の一二を掲ぐ左の如し

▲新潟縣商報部三條町報は補助貸借就て取引不便の故なり以て廿錢及び廿五錢の原貨小切手を振行し遂に信用署の信用を失ひ為に同地方銀行列行に於て國立銀行第八十八條及明治二四年七十二號布第四條に依り同人は十五圓の罰金に處せられたり以て同地方に於て鉄之の乏しきを知るに足る

▲高島縣下會津郡方は補助貸鉄乏し商家の取引不便なる為に業務の進捗を妨げ且つ其他の事業に於て鉄之の乏しきを感ずること甚だしく其不便なる故は之を舊藩主松平容大氏に請願して本務省へ面目付三四人の打診を遂し商家中に社會錢部組織を採用し一時貸與して取組を爲せの意向なりと

▲大分縣下日田郡方は補助貸鉄乏しく因て現出せる日田銀行之を救濟せんが爲窮迫期を定め十錢廿錢五錢三種の貸付新規を設すし補助貸に代用せしめ一般の利便を圖り居るとなり

右の事實に依るも地方補助貸鉄乏の一班を見るべし抑々斯の如く鉄乏を來せる原因一にして足らずと雖ども其一なるものを尋ぬれば（一）交通機關の發達に伴ふ物品の流通を普及せしめ從來物品交換に安んじたる者も漸次貨幣取引を爲すに至るの自然の順序にして特に我國の如き物品交換の盛んに行はれたる國に於て其勢最も著るしからざるを得ざるを以て而して物品交換には從來其餘大ならざるを以て是等貨幣取引に移る場合に必要なる補助貨なる現に我國の人口一人に對する通貨の流通高ハ二十三年に未だ位一圓五十四錢補助貨八十六錢四厘合計四圓四十錢にして唯二十九年二厘合計六圓七十九錢二厘となり通貨流通高逐年加するハ口增殖と共に通貨の膨脹を要する秋々の原因ゐるべしと雖ども亦漸次物品交換から貨幣取引に移るの一證と見るべし（二）又近時我國の鐵道布設鐵山、鉱業其他の諸工業ハ長足の進歩發達を遂げ勞働者も數を增加し日々是等に仕拂ふべき金は概ね本位貨にあらずして補助貨なり（三）而して我國の人民ハ貨幣を私藏する事仲度士人の如く甚だしからざるとは雖ども其一ハ往々貨幣の用を誤解したる私藏するの風ありにあらず是等細民の手に入るもの多く補助貨なるを以て其利

厳せらるゝ額丈ハ流通高より減ぜざるを得ず（四）殊に日間職役の爲めに我通貨の流通を妨げ且つ職爭中朝鮮及び遼東の野に散布して清國人の爲めに費されたる補助貨の額も尠なしとせず且つ臺灣島我開土となり内地と同じく通貨の流通を要する為に補助貨の額も尠なしとせず且つ臺灣島我開土となり内地と同じく通貨の流通を要するのみならず同島の士民ハ頗る貨幣を好み私藏誠匿の弊内地の細民に比すれば殆んど同日の論にあらず其利する所の金ハ一厘と雖ども之を獲せず得るあれば必らず之を貯蓄もるの風あり此守錢奴の爲めに私藏せらるゝ補助貨の額も尠なしとせず以上の鉄之の缺乏の原因として見るべき確実鉄之を減せざるは其他なし補助貨の增加本位貨の增加に伴はざりし事是なり即ち去る廿三年に百圓中の比例本位八十四圓四十錢補助十九圓六十錢なりしも昨廿九年末に本位八十五圓補助十四圓に減少したる事實あればなり是補助貨の漸次鉄之を告ぐるに至りし最大の原因なるべし然るに政府が之に對する救濟の外三十年度に於て補助貨百十萬圓（内七十萬圓は政府紙幣中の補助紙幣消却高を補充し殘額丈け差引四十萬圓に過ぎず）を鑄造もる事にて之を現今鑄造中なる百廿萬圓の殘額を加ふるも毋年度中の補助貨の市場に出べき額ハ百萬圓に過ぎざるべく現今の情況迚も百萬圓内外を以て此欠乏を補ふ能ハざるに依り造幣局に於て鑄造の間に合ふ限りは更に增製せらるゝ事ハあるべしと雖ども日本及び支那の商況を視察

◆細巡商業視察員

之れが爲め最近に組織せられたる細巡商業視察員の一行ハ二月廿七日プレメンを發して東洋に向へり此一行の員數たる最初の四人若くは五人の豫定なりしも本外に實業組合の注意を引起し遂に增加して四人となれり右の中の三人ハ此回の事を發起る商業會議所を代表し其他本縮ス産業、羊毛、製織、鑛器業會銀細工商の各一人を代表し而して内務省官吏金之が事務員となり外務省は日本及び支那の公使及び領事に命じて有ゆる便宜を與ふべきを命じたり此行ハ細巡國全体の商業を振作するの目的なるを以て一行ハ日本及支那の商業家に對し個人的の特別商業取引に干與するを禁じたりと云ふ

鹿印煉齒磨

良質佳味ニシテ衛生上最効能アリ使用後精神爽快ナリハ本品ノ特色ナリ

發賣元　東京馬喰町二丁目（電話九二三）
花王石鹼本舗　長瀬富郎

花王石鹼

（花王石鹼は皮膚の美艶を增し且衛生上大に特効あるは已に帝国醫科諸君の賞賛の如し委敷は本品に他書を附す

花王石鹼は宮内省○陸海軍○帝國醫科大學○其他各病院の御用を命ぜられ夙に内外需用諸君の高評を博し且第四回内國勸業博覽會に於ては有効一等賞牌全國五二會品評會に於て銀牌を獲

退仲以製の相似品有之に付花王石鹼登錄商標及長瀬富郎名義に御注意の上御求を乞

製造發賣本舗　長瀬富郎
東京馬喰町二丁目（電話第九二三番）

市内ハ勿論全國到所有之の和洋小間物店及賞藥店に大販賣所有之候間最寄にて御取次を乞

樂劇師　瀬戸高峯
愛學士　末吉弘先生品發明
愛生病院　讃吉先生試驗證明
工學士病院々長　中村重治先生賞讃證明
工學士　大久保毅誠先生賞讃證明
理學士ドクトル　飯島愛藏先生賞讃證明
藥學士　古屋垣次郎先生賞讃實狀
藥學博士　佐藤三吉先生賞讃實狀
醫學博士　此の他各大家の賞狀あるも略す

●第一色を白くし美艶は勿論そのうるおひ　むしの類　はだのひび　一切に絶して皮膚病

定價一個金拾貳錢
桐箱三個入用五錢

牡丹

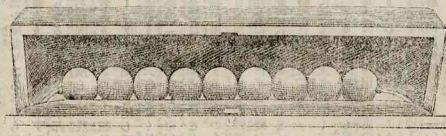
發賣元　東京錢座町四ツ角　佐木玄兵衛

定價　一貫　二錢
特製　五錢

大販賣所　日本橋區馬喰町一丁目　平尾贊平　日本橋區通油町　村田藤吉

◎佛蘭西博覽會出品確備　來月第三年佛國大博覽會出品に關し當局者より其出品手續期限等を公布したるに付ては未だ深く念頭に掛ざるの如し然るに其出品種類に於ては決して其時日期迄と雖とも遅くとも明治の末迄に出品すべき筈なれば

專賣特許人造珊瑚珠



今般弊舗に於て發賣仕候人造珊瑚は發明者多年の研究を以て始め得たる者にして專許を得て眞に純粹の人造珊瑚なり從來のゴム玉一個石玉二個の代用品に無之右の如く專ら品質を鑑み賣出し申候

第四回内國勸業博覽會受賞　雲井織

御婦人用　一名改良森の子（花元結手刺　浮き彫り帶かは帶揚　金入り　金なし）

織元　都　坂根兄弟商會
製造　手　江州川並　外村新五郎
販賣　元　京都烏丸元六角下ル　加納作之助

この雲井織は弊店が多年の經驗と學問の苦辛とを積み漸やく茲に發明製造せし前代未曾有の織物にして今其体裁と効能は殊に優秀なる體裁を以て組めたる者にして其色合は稍もすれば褪色し易き欠點あるも本織は決して褪色せざる確精巧精美なる品にして其價格も廉なる上に無用和成なるも變色の無用なる上に無用なる上に無用なる上に

●杭州輸入本邦産貨物需要の景況に付き清國杭州駐在小田切領事より去月廿一日附を以て報告の内其幾貨に屬する分のみを摘録すれば即ち左の如し

同景況に付

（前略）本邦製摺附木に就きて當地商人の云ふ所を聞くに毎年五月頃降雨多最空氣湿潤の云ふに至る時い本邦摺附木は發火薬麁に過氣を帶び不斷之を焼め置くにあらざれハ發火不良殆と使用に堪へず又各種とも木頭無燐のものあるを免ざるを以て實に本邦の劣敗なりと云ふ

洋傘　當地に輸入する洋傘歐州製、本邦製の二種あり歐州製は軽にして製作堅牢完美なれ本邦製は價格低價にして一打四元乃至七元位なり六七元の品は外觀頗る美麗なり繻子を張りしものに過ぎ其最も廉價なるものに至りては使用日ならずして毛糸子の光澤剝落變化もとる能ハざる云ふ歐州製の堅固良好斯の如く本邦製の粗造劣惡斯の如くなるに拘らず本邦品之を歐州製に比して價格の極て低廉なるがために其勢力優に歐州製を凌駕し昨年夏季中本邦製の資高ハ殆ど千七百打以上に至れりと云ふ而して當地方人の洋傘を使用する者年々に増加するの傾向あるを以て若し本邦製にして少しく改良を加へ外觀を美麗にし保存に耐ゆる樣製造之を益々好況を呈するに至るべし

洋燈類　洋燈にも歐州製と本邦製との兩種あり本邦製は比して著しく廉價なりと雖も其製造頗る不完全なり而して此兩樣とも油入の玻璃製にして不向にして金属製の品最も需要多し本邦製壜、把手、油入共に真鍮、鍍金の鐵葉を以て製し高さ四寸許、油入の周圍四寸五分許、價格一箇に付き十八仙位の品ハ當地に於て手燭の代用品として需高甚だ多く最も繁盛なる西洋雜貨店に於ては昨年中八百打以上を賣捌けりと云ふ該品に於ては其製造粗なるホヤ」の劣惡なる殆と玩弄品に異ならざるの觀あるを以て若し少し製造に於ては好成績の見込ありと云ふ

石鹸　當地に於ては歐州製と本邦製の兩樣あり本邦製は比して著しく廉價なりと雖も其價格に非常の差異なきを問せず本邦製洋燈の需要は益々增加するに至る云ふ「ポケット」石鹸の如きハ本邦品の需要は歐州製に比して僅に一打三十五仙にして之を他國製に比すれば粗惡の點顕著なりと雖も價格の低廉なるが為め當地方の需要に適するものゝ如し

錫子類　本邦製錫子にして近來上海より輸入し来るものあり玻璃の厚さ二分餘、裏板に模様の釣を附す大なるものは長さ四寸、横三寸此小賣市價十二仙。小なるものは長さ四寸、横二寸

市價八仙位なり本品玻璃の品質は良好なれども裝飾は甚しく粗造なり然れども價格非常に低廉なるが為め大に當地方の嗜好に適し其幾貨店に於ては一箇月に十打を賣捌うたるものあり又本邦製寒暖計、塵雨計等の類を販賣するの商店あり此二品も一箇は輸入品にして粗なる蒔繪を施したる品市價一打に付き二元八十仙位なり之を歐州製寒暖計の價格一箇に付き一元五十仙位なる物に比較すれば品質の粗惡なる素より免るべからざる所なりと雖も使用上比較的に差異を見ざる程の低廉なるがために本邦品の需要日甚だ宜しきものゝ如し

齒楊子　本邦製齒楊子も亦頗る多額の輸入あり柄は牛骨製にして横毛四條ある物市價一打に付き四十仙乃至六十仙位なり之を歐米製の輸入品に比するに非常に低廉なりと雖も當地の割合に品質劣らざるを以て賣口大に宜しく昨年中當地の外にて數千打の消販あり當地商人の言に據れバ毛足を縫糸の物より短縮し更に少しく地を厚くせば愈々當地方の嗜好に投して賣高を増加するならんと云ふ

齒磨粉類　本品も亦過る多額の本邦製品ある を見る多くハ大坂、兵庫邊にて製造せし物にて磨砂に薄紅色を加へ之に多少の薄荷味を混して桐製の小箱に收め或は附箱の名を以て販売せり而して或は花鳥婦人の絵書を貼附し或は表面に小袋子を附す市價一打に付き十五仙乃至二十五仙位なり又堅牢なる玻璃瓶に同樣の品を收めて之に西洋書を貼附する種類あり市價一打に付き三十五仙位なり以上各種を一見するに其組製甚拙くして雖も外箱の美麗と價格の低廉なるが為め當地方の需要者は品質の良高一萬打以上に達せりと云ふ又白粉に少許の鉛里設林を混じて之に少少の香氣を加へて玻璃瓶に收め栓を又玻璃にて製し絲色の綿糸を以て之を括り一方にハ雖馬字を以て水白粉と記し目耳髮製等の文字を記入し他方には清文を以て然能書を記載した張紙を貼附せる品輸入し居れ本品の如きハ品質の粗惡に拘らず一打に付き七十仙位の小賣直段にて昨年中の賣高ハ二萬打以上に達したりと云ふ

陶器類　本邦品の如きハ販売せらるゝを見ず唯七寶燒を販賣する者の商店一箇所あれども賣口多からずと云ふ

●獨逸化學博士「マイカイ」氏發明

洋法
白粉
ベルベット
透明

●毒性西洋白水粉

定價
特別製五十錢
大瓶壹錢
小瓶十錢

●此邊四白粉「ベルベット」ハ顔一見水のバ樣ナレドモ白粉ノ適リ顔色ハ白クあれども白粉ニ比ベ顔ハ白くかすり事ナリ

●本品ハ現時歐米諸國ニ於テ大流行ナリ品質良良ナリ芳香優美ナリ衛生上經濟上共ニ最上ナリ所ナリ使用者君ノ愛顧ヲ願フ

●製造本舗　東京　百花堂板橋製

●本品ハ獨逸ノ特許品ニ付ク時ハ必ズ偽品ニ注意ス

●當分之内一打ニ付フランス紙壹枚ヲ意匠ノ看板ヲ添ヘ代金百文ヲ上ル

●全國一手發賣元東京横山化粧品

田中花王堂

賣口（順ハイロイ）

特約販賣名

横山町四　尾張屋
横山町二　脇田
横山町二　柏屋
横山町二　横山亀
横山町二　小岳
横山町二　大善
横山町二　大忠
横山町二　近江
横山町二　佐久田
横山町二　源屋
横山町二　善金
横山町二　玉置
馬喰町二　丸善
馬喰町二　萬屋
馬喰町二　森本
馬喰町二　江尾
馬喰町二　汐見
馬喰町二　井上
馬喰町二　武藤
馬喰町四　村田
馬喰町四　尾張屋
著松町　富岡
吉川町　大尾
横山町　脇田
横山町　野口
横山町　丸善
横山町　萬屋
横山町　森本
横山町　江尾
横山町　汐見
横山町　井上
横山町　武藤
横山町　村田

●當分之内一打ニ付フランス紙壹枚ヲ意匠ノ看板ヲ添ヘ代金百文ヲ上ル

●清樂器及附屬品一式製造卸

樂器廣告

柏葉堂製造器ハ木材品質ノ善良ナルハ篤ニ御得意諸君ノ賞賛ヲ得タリ題キ候ハ偏ニ御得意御大家之御厚情ト本深謝餐尚益大勉強仕候間多御注文アラン事希望候

東京日本橋區藥研堀町十八番地

發賣本舗高井柏葉堂

●獨逸製造元　東京市橋區藥研堀七番地　本舗　丸見屋善兵衛

●本品の特色

當品ハ比し質格ハ低廉ナリ光澤頗ル鮮麗ニ付て見て而カモ長ク使ヘリ

森本江尾汐見井武村田

本尾川見

●此邊四白粉「ベルベット」ハ顔一見水のバ樣ナレドモ白粉ノ適リ顔色ハ白くあれども白粉ニ比ベ顔ハ白くかすり事ナリ

●於テ大流行ナリ品質良良ナリ芳香優美ナリ衛生上經濟上共ニ最上ナリ使用者君ノ愛顧ヲ願フ

●本品ハ必ズ偽品ニ注意ス

●獨逸製造元　東京市橋區藥研堀七番地　本舗　丸見屋善兵衛

●本品の特色

當品ハ比し質格ハ低廉ナリ光澤頗ル鮮麗ニ付て見て而カモ長ク使ヘリ

森本江尾汐見井武村田

本尾川見

●發明特許願登錄意匠登錄願

東京府芝區伊皿子七丁目

商標登錄願

東京市橋區手數料安鑑定料無

●製造元　東京市橋區藥研堀七番地

本舗　丸見屋善兵衛

電話役所第八番

反古ふゝべ

▲天保年間觸書の寫し（承前）

（天保十二年十一月廿六日）

近來面体を隱し候頭巾を掛へ途中にてかぶり候者數多有之奉行所尋者に紛敷候間前々より有之丸頭巾角頭巾の外一切かぶり申間敷候

右之趣先年相觸候處又々面体を隱し候奴風の頭巾かぶり候者有之段相聞不埒の次第左様に有之間敷事に候依之以來面体隱し候頭巾かぶり歩行候者於有之は屋敷にて廻りの者見懸次第頭巾をとらせ名前等も承り疑敷者に相聞候はゝ召捕相に不及町奉行所へ可被相渡儀尤も呑違の不苦ヽ

右之趣享和元百年中相觸い處近來男女とも頭巾をかぶりい上手拭を以鼻口を掩ひ後にて結びして面体を隱し往來いたし右風儀武家へも押移りい哉に相聞風俗に拘り如何の事にい以來右体の者見懸いはゝ前條の通相心得疑敷者いはゝ召捕奉行所に可被相渡い

右之通り相觸い聞得其筋町々にて廻りの者見懸次第頭巾をとらせ同樣に相尋疑敷者にいハヽ召捕奉行所へ可申出い尤も咎違い分は不苦旨町中へ可被相觸い

十一月

右之通御書付出い聞町中家持地借店借裏々まで寫ヽ申聞せ以來急度可相守い此旨町中不殘可相觸候

丑十一月廿六日　町年寄役所

（同年十一月廿九日）

一高突興行に付札賣の儀は門前茶屋等取次いたしい儀可爲無用本堂本坊に て當札差出其外は何方とも決而札賣不相成定に有之い處中賣の者有之趣相聞如何に付見受次第召捕い旨文政四巳年中申渡置い處近來市中掛床等にて大行に賣捌い者有之哉に相聞不埒に付早々右掛床の分は取拂ひ後右体の者有之候ハヽ召捕品に己町屋にて賣捌い分は相止させ其段可訴出若此方に召捕品又は町々往還にて往來人へ賣錢爲致間

一神佛繪札又は町々往還にて往來人へ賣錢爲致間

を振中の者へ品物相渡し又ハヽ錢にて取引いたし候者有之候間以來右体の者有之候ハヽ見懸次第捕押り行事共より召連月番の番所へ可訴出旨去ル寅年申渡置候處奴角不相止右は鼻覺町役人共心付方等聞右の儀に付猶組廻りの者へも申付爲有捕候間以來聊無油斷可召連候若見逃置候ハヽ町役人共迄急度可申付

一風の儀近來絵摺彩色等無益に手を込高直の品も有之趣相聞候此節仕込錢時節に付右体の品決而拵へ申間敷候尤賣而申渡置通り大き成風仕返申間敷旨右渡世致候者共へ急度可申渡置候

右之通申渡候間不渡樣一同に早々申通り以來違失無之樣可致

右之通被仰渡候其後爲日仍如件

天保十二丑年十一月廿九日

（番町名主連名おれども略す）

紀南旅眼　石（つゝき）　十返舍一九

きさらぎなかばのころ、人〳〵にいざなはれて、利根川の小舟にちのり、こき出しはべるに、春の日の空しづけくて、霞ひたちの砂山にかゝり、かしま、かとりの神ゝます杜の、いと青きまで目わたるばかり、はれわたるも、釣するわらハ、しゃみとるおはなの、ひなびたる興も、いと細くきこえはべる、のぼれる舟にいろくづの籠、所せきまでつみかさねて、えもしらぬうたの聲かぎりにかぎりとりろをおして、過る小舟へ矢よりもはやく、くだれるハ木ゝろくしの乘合舟にや、吹風に帆をあげて、はしる舟にハ、水まくみとゝころに手をつかねて、したりがほにわらはぬたれ言など、はなしつかれてあらひのゝしり、すぎゆくさまハ、いと興ありげに見へはべる、おのれが乘たる舟にも、笹川のゝひやゝ、土屋五兵衛子より、おくられし破籠弁當なぞ取ちらして興をもよふし、子も竹の皮づゝみ取出して、笹川だんごのいとしはからきに、舟のゝ上にゝ茶をかゝして、ともに腹のふくるゝまでかせに、はなしものして、横岸とゝいへるに着ハ、はやくも、さりや此さとゝい、ちかき頃まで、船家わ

ライオン齒磨の特効

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はるゝ普通齒磨と異にして香氣新鮮にして口中の汚物と臭氣を去り齒質を淨白健全なる世界無比にして且該品を常らしむると雖も齒齦を治し縱口中一切の病を思ふる無きと雖なし是れ本品の特効なり江湖の諸賢續々御試用の上御高評あらんとを乞

東京特約店　東京市神田區柳原川岸廿二號地　電話黒花四九八番　小林富次郎

横濱特約販賣　横濱市常盤町二丁目　天野支店　中村商店

特約店東京小間物卸商組合各店

○賣捌所ハ全國到ル所ノ小間物店ニアリ

また町をならべ、こゝにまる、元船の客をまちうけて、ことさみせんに席をにぎはし、うたひまひ興をもよほして、人林しげりさかえたもに、今ハやうやく、娼家二三町のみ殘りて、ようづひかしにかはりたるとなん

むかしにもかへれいなばのみれに生ふる
秘密しならば今たつた今

こゝに市野屋といへる、茶亭によりて、諸皿子ハ予が僕、太吉と共に、江戸屋へゆへ、娼家になむ、出行たまへり、おのれのみ跡にありて、人のもとむるにまかせ、例のあやしげなる遊びをかきて

節分の鬼にかはりてよめるうた

わたくしが天の邪鬼ならどうなさる
さてもしつこい鬼はそと〳〵

江戸屋の藤が枝といへる遊女、うたかけど、あふぎをもたせおこしたるに

ひらさきのやかりの客をひきとめて
まつぎしにさくみちがえの君

娼客をよめるうた

やう〳〵とかあぬけしたる男ぶり
かれゝ御水とつかひはたして

こゝに鶴寓といへる、茶亭より、人おこせたりけるに、やきて見れば、田舞の月見すれはしけりも、たはれ女も、みたりもすでこゝに來りて、酒くみかはしはゞやしに、一人ハ中のがえ、今ひとりハ豐梅となむ、のこるハみつ里といへるよし、すがたものゝこゝしひなめるだれと、かほのけはひ、いとつやゝかに見へはべる、そのみたりを、よみてよとあるじのもとめに

こゝに又松のくらゐをみつの里
なにはのむめとかはるうかれ女

五瓢樓のあるじ、繼よゞ出したまへるを見れば、予が友人、一雅亭の筆なり

そうゝ虎の皮のふぎしのさがり藤
折られしとてや松が枝に咲

本城はちらい屋のつるしげといへる、遊女をかきたるに、うたよめと、ある人の乞れければ

うつくしやこゝのびいどろをさかさまに
つるしげの名のたかき御きりやう

（以下闕出）

作者不詳

●司馬温公繁鏡　婦人六德和解

○不　妬

不妬とは夫に順ひて背き悖ることなく我身を正しくして人を憐れみたとひ夫の愛する妾ありとも夫をもとれねたまず恨み怒る心なきを云ふなり女ハ心はゝくして嫉妬ふかく夫に不足を思ふ人多しこれ女第一のつゝしみ事なりたとひ外に夫の愛する人ありとも夫をもねたまず夫に少しも不足をおもはず却て夫の心をはかりて其に妾を愛しいつくしむ心あれば夫との節義にはなして妻を見かへす妾も亦この恩を夫皇后はこれをうけてかろしめ侮る事あるまじ漢の明帝の后馬皇后は天性才德すぐれさせたまひ學に通じ行ひ一つとして道にかなはずといふ事なし、物ねたみの御心ましまさずして皇子のうまれさせたまはゝ事をのみなげかせたまひ才かしこく容うるはしき女あれば帝に奉つたまひ若し御寵愛あれば、かゝりなく悅びたまひ其女を猶々したしくめぐみたまひ、尊き御身なれどもいさゝか奢たまはず、はなやかなる御衣を着たまはずあらき御衣をのみ着たまひしとなり、又我朝の紀氏なりける井筒の女は妬む心少しとなく、かへりて夫を大切に扱ひ心かゝりけるとぞ風ふけばおきつまちなみたつた山
夜半にや君がひとりゆくらん

とよみしこゝろいとあはれふかし

（未完）

●磯白の露は他に類なき粉質にて肌を白くし顔に用ひて甚だ美しくなり細かく顔の皺を消し面部の皺を除き面色を美しくし面部の皺を除き面色を美しくし面部の皺を除き面色を美しくし

餘興

秋の屋判

▲東京名物狂歌合

左　勝　風月堂饅頭　繪馬屋

さゝれ石のいはは に苔のむしたてや
風月堂の君が代饅頭

右　丁子園猫好

名にしおふいろは仲間の角文字の
いろは牛肉
つの突合わせぬ牛肉屋

左いはは に苔のむしたてとて、おぢはひ深き君が代饅頭　新製なれば評判たかし。
右角文字のいろは仲間の牛肉、うまからぬにいあらねども、風月堂の甘味より、その賣高のひくさやうなり。

左　持　植半蜆汁　蟹の屋

墨田川植半に問ふまでもなく
名をしるもよし藥年蜆

右　柳の屋露交

榮太樓羊羹

榮太樓をりも色紙のかたちにて
ていかの安き小倉羊羹

左阿保親王の五男どの、右俊成卿の總領息子、ともに名高き歌仙とかせん、伊勢物語も新古今集もひとり書綴の上におくべし。

（以下續出）

小間物商報の愛讀者に限り東京名物をよめる狂歌を直接に判者方へ投詠されれば判詞を加へて送次然し上に掲出すべし但し判者は下谷區谷中三崎町四十五番地梅本鐘太郎氏なり

▲圖館の町名讀込み狂歌

函館鶴岡町　淺見　主人

一月の初賀あての注文が
暮にとゞきてながく大町
三平二滿も東京仕入の化粧品
つくりもわくれば活た辨天
一文の金から身上ふとらして
むかし思へばほんに末廣
押賣をいやゝながら引受て
思はぬさんけゐつた幸
小間物をたんと仕入てたから船
陸揚げする　西東濱

開け行く世につれ變る小間物の
石川ならで真砂町かも
小間物で斯く身代も出來しゆゑ
もはや動かぬ石地藏町
品物をたんと仕入て直を安く
うつてお客を鶴岡町
年寄れば商ひとても大儀やな
家智ゆづらひぜがれ若松
取引に信用切れし其とこの
共にはたらき捻れし大繩
商ひの海老で鯛つる如くなり
さんけて見れればニッコリ惠比須
お互ひに信を破らず商へば
世の太平で蓬萊の町
商人の暴き塞さもこらへつゝ
辛抱すれば末寶町
失敗の智惠の働き足らぬなり
西での損のゆらへ東川
正直に商ふ人の住居こそ
實に色かへぬ松の高砂
一粒の種がだん〳〵殖へ榮え
元の野原も今は大森
當てもなく寶の糸を望むより
勉强すれば直に大黑
皆さんに引立られて普請した
いろはの倉の鍵銀へ銀冶
商ひの初めは金や智惠ならず
親のゆづりの身体臺町
新形の洗行ものゝ洋婦まで
美きに見とれて駒ヶ町

◉四十七號智惠くらべの解

㊀罪紙、帳（警視廳）㊁肩、頭（蜘蛛）㊂水のゝゝにゝ鵜がアありまさかい（水野、井伊、丹波、德川、有馬、酒井）

（一）二南千住町田村店無識○千葉縣井上賢太郎○東京神田餘勝坊○同下谷白雲小僧○伊勢鈴源内專次郎○上州高崎内田小僧

（二）甲府柳三矢崎店員半司郎○東京本所綠町二丁目林長之助○宇都宮市宮島北住○東京日本橋邊人○同本石町某店小僧

廣告

（いろは順）

一各位益々御繁榮之條奉賀候扨て昔年より夙に御賞賛を請居候東京元結之義は從來より組合員一同特に製品の善良なるを旨として一府篤實に營業罷在候處近來東京元結問屋と稱し品位の何たるを論せず行商者有之候哉に承り右は我の品位名稱にも相關し候に付今回各位の御注意迄に下名を列記し茲に謹告仕候間連名の者へ向後益々御信用御引立の程偏に奉願候以上

明治三十年二月

東京元結問屋組合事務所

信濃屋號　市崎音二郎
三河屋號　瀨伊八
岡本屋號　萩本彦四郎
大倉屋號　原常吉
山城屋號　西川重治郎
山城屋號　西川幸太郎
桔梗屋號　富永權左衛門
岡本屋支店　大谷藤助
吉田屋號　加藤慶二郎
和泉屋號　香山兼助
大倉屋號　吉川金兵衛
柏屋號　内藤龜吉
牧野屋號　村瀨平太郎
入野屋號　牧野紋三郎
大和屋號　松島榮吉
近江屋號　藤井惣右衛門
上州屋號　布施長八
桔梗屋號　荒木芳五郎
野口屋號　下田勘藏
城子　林兵衛

平尾賛平名義繼續廣告

今般平尾賛平死去致候に就ては各地御得意樣方より種々御問合之向も有之候得共弊舗儀は豫て營業主任幷に店則等も確定致居候儀故同人死去致候共更に方針其他とも變更は不仕候のみならず矢張從前之通り平尾賛平名義を繼續營業し旦向後い一層の奮勵を加へ專ら薄利着實に御取引可仕候間何卒倍舊の御愛顧被成下度此段爲念謹告仕候也

日本橋區馬喰町一丁目六番地
二世　平尾賛平

其他リスリン石鹸各品
諸石鹸卸販賣仕候
長榮社製造代理店
日本橋區小傳馬町三丁目九番地
ねとり
スリン
艶の司　本舗　永井德太郎

エフ傳藥ノ良力タル事ハ疑ヲ挿ミセス刻驗ノ如キハ御試用ノ上御評賞ニ任ス

製造發賣本舗　東京市谷車坂町八十八番地
藤卷商店
東京東馬喰中橋廣小路
野澤商店
仝銀座二丁目
佐々木立兵衛
仝日本橋馬喰町
平尾賛平
仝横山町二丁目
江川支店
特約店
見本品御入用ノ方ハ御申越次第直ニ御郵送可仕候

第四回内國勸業博覽會褒賞拜受
全國五二會品評會一等褒狀受領
TRADE MARK
THE DIAMOND
AN EXCELLENT TOOTH POWDER
世界一流
登錄商標
ダイヤモンド
齒磨
一名良品
東京市馬喰町壹丁目
平尾氏謹製

定價
袋入　金一錢
小箱　金二錢
大箱　金五錢
圓形鏡　金五錢
付箱鏡入　金八錢
鏡付　金十錢
大箱付　金十錢
鏡付　金十五錢
瓶入　金十錢
木箱　金十錢
高等名入　金十錢

本品は明治廿四年創業以來内外各地に非常なる好評を博し從て販賣高之多き事日本全國中第一とす且品質之純良と價格之低廉なるは普く諸君の認むる處也

水白粉

高等製　金十五錢
普通製　金十錢

煉白粉

近日發賣仕り候也

本品は我國にて未だ嘗て合劑したる事なき動植藥品を以て製造し品質に至りては世上に販賣する諸品の如く身體皮膚を害する事なき故勿論平常之れを用ゆれば試驗一ひゝ毫をばかすは勿論たとへ夏は日にあたけ汗をかくとも其外ふきでもの顏手足のあれ皹こしわをのぞし夏は日にあたけ汗をかくとも等の憂なく眞に潔白華艷なる肌となし實にダイヤモンドの命名に背かざる也請ん御使用之上其効驗の有無を知賜ふべし

割引
三十打以上　五五掛
五十打以上　五六掛
二十打以上　五七掛
一打以上　六掛
但し三十打以上御注文の方には一回限り御除名美麗なる木彫板一枚進呈す

一名寒書あゝ石鹸
製造元　東京　平尾贊平

有名貴藥化粧品類　御問屋　宮内省御用達　小町水本店　岳陽堂　平尾贊平

便利大宗問屋　東京市日本橋區馬喰町一丁目
電話番號六百五十二番
販賣店横山町四九番地　横山町一近藤　通油町村藤　銀座一佐々木　通塩町山田　馬喰三丁目一番　横山町一中濱　馬喰町一柏屋　馬喰町一三嶋　横山町一藤忠　横山町一中濱　若店三梅　馬喰三都幾

美人社會に高評博したる化粧品大王
西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒せの御衛化粧」別嬪おまろい一名德明水白粉
原品直輸入元
獨ムスキング會社

一名商標
理化學水白粉
別嬪おまろい

表裏　本緒土佐製
すゝし形　於福形　雲井形
ふしぶし形　千鳥形　都鳥形
新歌舞伎形　巻藤形
發賣元　小間物問屋　東京市神田明神下　大和屋惣右衛門

意匠風流　元祖形
上諸の本紙土佐紙にして裏面の同紙質の紙地に鼠の小紋更紗の型夜に於る新意匠たる風流の新品にして專ら流行中の新形より新案のものなれば形は勿論結び上る端美高尚にして裏面の風致を粧ひ品位を高め至て優雅の裝飾品なり

定價　大版二十錢　中版十四錢　小版七錢
別製　五十錢　三十錢

◎此別嬪おまろいハ一目見れハ只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする奇効の如く玉の如し行水湯あがりかゝるを用ハすれば其場ですぐに用ふるとも決してぢらになる事○あせ疹○ふきでも物は立所にさるがゆゑにこれを用ふ玉は人一倍の美形を放つ

化粧品小間物藥離問屋
東京市日本橋區通油町三丁目一番地
白光堂本店

特代理店
東京日本橋區横山町一番地
同馬喰町二丁目
同横山町四丁目
同通油町三丁目
同馬喰町二丁目
同神田佐久間町一丁目
大阪市西區靱南通三丁目
大阪市西區靱南通三丁目
天王寺町　源七
平尾贊平
丸屋商藥部　山田儀三
武井健三
大阪市西區靱南通三丁目　武井商會
本國諸藥問屋　小間物化粧品及び藥店に販賣所あり

賣月五日十五日廿五日三回發行　發行者　東都金雲鏡五郎一　編輯兼發行人　西森武城